

泉南市遺跡群発掘調査報告書 XX

泉南市文化財調査報告書 第三十九集

2003.3

泉南市教育委員会

序 文

大阪平野南部に位置する泉南市は、大阪湾に面し、背後に和泉山脈をひかえた自然環境豊かなまちです。また、大阪平野の中心部から通勤圏内にあり、さらに関西国際空港開港に伴う道路など社会資本の整備が盛んにおこなわれ、住環境にも恵まれたまちに変化しつつあります。

自然環境、住環境とともに、人々をとりまく環境において忘れてはならないものが、歴史的環境です。歴史的環境は、遺跡・建造物・古文書など過去の資料によって形成されます。全国的に画一性のあるものではなく、地域ごとに特色のあるもので、その地域を特徴づけるものであります。歴史的環境は、地域に住む人々の誇りとなりうるものであり、地域を特徴づける独自の景観や地域性を形成するものであり、観光などの経済的資源であり、教育・学習に活用しうる文化的資源といえます。

現在、市内には93カ所の遺跡が存在しますが、年々姿を消しているのが現状です。本市では、年々消えゆく埋蔵文化財を発掘調査し、歴史的環境の記録を保存することで対応しています。さらに、国史跡指定の海会寺跡を史跡公園として整備しているほか、併設の泉南市埋蔵文化財センター・古代史博物館において、学校教育や生涯学習の素材として発掘調査で得られた資料の活用も行っております。

本市における文化財の保護・活用を通じて、皆様が地域の歴史を身近に感じ親しみ、魅力あるまちと感じていただければ幸いです。

最後になりましたが調査にご協力いただきました地元土地所有者、近隣住民の皆様、ならびに関係諸機関の方々には深く感謝の意を述べさせていただきますとともに、今後とも本市文化財保護行政に、より一層のご理解とご協力、そしてご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年3月

泉南市教育委員会

教育長 亀田章道

例 言

1. 本書は、泉南市教育委員会が平成14年度国庫補助事業として計画し、生涯学習課が担当・実施した泉南市遺跡群の緊急発掘調査事業の報告書である。
2. 調査は、泉南市教育委員会生涯学習課、岡 一彦・河田泰之を調査担当者とし、また角間幸司を事務担当者として、平成14年4月1日に着手し、平成15年3月31日に終了した。なお、本書に掲載している内容は、平成14年1月1日から平成14年12月31日までのものである。
3. 調査及び整理の実施にあたっては、江尻美代子、蒲生徹幸、蔵田弘幸、田上真理、富 愛、福井元気、藤野 渉、真鍋紀美子諸君らの協力を得た。
4. 本書の執筆は、岡・河田が行った。執筆の分担は目次に記した。本書の編集は、岡・河田が行った。
5. 現地調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は、河田が行った。
6. 調査における出土遺物及び図面、写真などの諸記録は、泉南市埋蔵文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを望むものである。

凡 例

1. 各調査区には、個別の番号をつけている。番号の基本構成は、「遺跡略称(記号)－年度－通し番号」である。遺跡の略称は、男里遺跡－ON、戎畑遺跡－EB、天神ノ森遺跡－TN、幡代遺跡－HT、岡中遺跡－OK、氏の松遺跡－UJ、岡田遺跡－OKD、中小路北遺跡－NKN、中小路西遺跡－NKW、坊主池遺跡－BZ、大苗代遺跡－ONS、下村遺跡－SM、兎田遺跡－US、海会寺跡－KAI、座頭池遺跡－ZT、上代石塚遺跡－JD、本田池遺跡－HNである。調査年度をあらわす場合、元号年度は西暦年度に読み替え、上位2桁を省略して表現している。
なお、隣接するふたつの遺跡にまたがる調査区が2件あり、本書では下記のように表記している。
男里遺跡および光平寺跡に含まれる調査区
「男里遺跡・光平寺跡02－4区」もしくは「ON・KH02－4区」
中小路西遺跡および坊主池遺跡に含まれる調査区
「中小路西・坊主池遺跡02－1区」もしくは「NKW・BZ02－1区」
2. 図中の方位は、PL.1・2では真北を、各調査区位置図・地形図では国土座標VI系にもとづく座標北を、各調査区平面図では磁北をあらわしている。
3. 図版中に示したレベル高は、T.P.+(m)の数値を使用しているが、T.P.+は省略している。
4. 本書で扱う地形分類図は、豊田兼典氏が作成した(PL.2)
5. 遺構名称は、アルファベットと任意の数値の組合せで表している。SD－溝、SX－性格不明遺構。
6. 図示する遺物の断面を、土師器－白抜き、須恵器－黒塗り、瓦器－トーンのように塗り分けている。
7. 出土遺物の番号は、遺跡毎に通し番号を付した。遺物実測図および挿図と写真図版では、遺物番号は統一している。また、同一写真図版内で複数の遺跡の遺物が存在する場合、番号の前に遺跡の略称を付している。

目 次

第 1 章 調査の経過	(河田)	1
第 2 章 男里遺跡・光平寺跡の調査		4
第 1 節 既往の調査	(河田)	4
第 2 節 ON02-1 区の調査	(岡)	5
第 3 節 ON02-2 区の調査	(河田)	6
第 4 節 ON02-3 区の調査	(河田)	7
第 5 節 ON・KH02-4 区の調査	(河田)	7
第 6 節 ON02-5 区の調査	(河田)	8
第 7 節 ON02-6 区の調査	(岡)	9
第 8 節 ON02-7 区の調査	(河田)	9
第 9 節 ON01-7 区の調査	(河田)	10
第 3 章 戎畑遺跡の調査	(河田)	13
第 1 節 既往の調査		13
第 2 節 02-1 区の調査		13
第 4 章 天神ノ森遺跡の調査	(河田)	15
第 1 節 既往の調査		15
第 2 節 02-1 区の調査		15
第 5 章 幡代遺跡の調査	(河田)	16
第 1 節 既往の調査		16
第 2 節 02-2 区の調査		16
第 6 章 岡中遺跡の調査	(河田)	19
第 1 節 既往の調査		19
第 2 節 02-1 区の調査		19
第 3 節 02-2 区の調査		20
第 7 章 氏の松遺跡の調査	(河田)	21
第 1 節 既往の調査		21
第 2 節 02-1 区の調査		22
第 8 章 岡田遺跡の調査	(河田)	23
第 1 節 既往の調査		23
第 2 節 02-1 区の調査		23
第 3 節 02-2 区の調査		23
第 4 節 02-3 区の調査		24
第 5 節 01-4 区の調査		25
第 9 章 中小路北遺跡の調査	(河田)	27
第 1 節 既往の調査		27

第 2 節 02-1 区の調査	27
第 10 章 中小路西・坊主池遺跡の調査 (河田)	29
第 1 節 既往の調査	29
第 2 節 NKW・BZ02-1 区の調査	29
第 3 節 NKW01-1 区の調査	30
第 11 章 大苗代遺跡の調査	31
第 1 節 既往の調査 (河田)	31
第 2 節 02-1 区の調査 (岡)	31
第 12 章 下村遺跡の調査 (河田)	33
第 1 節 既往の調査	33
第 2 節 02-1 区の調査	33
第 13 章 兎田遺跡の調査 (河田)	35
第 1 節 既往の調査	35
第 2 節 02-1 区の調査	35
第 14 章 まとめ (河田)	37
報告書抄録	巻末

挿 図 目 次

第 1 図 男里遺跡・光平寺跡調査区位置図	4
第 2 図 男里遺跡02-1 区地形図	5
第 3 図 男里遺跡02-2 区地形図	6
第 4 図 男里遺跡02-3 区地形図	7
第 5 図 男里遺跡02-3 区出土遺物	7
第 6 図 男里遺跡・光平寺跡02-4 区地形図	8
第 7 図 男里遺跡・光平寺跡02-4 区出土遺物	8
第 8 図 男里遺跡02-5 区地形図	8
第 9 図 男里遺跡02-6 区地形図	9
第 10 図 男里遺跡02-7 区地形図	10
第 11 図 男里遺跡01-7 区地形図	11
第 12 図 男里遺跡01-7 区出土遺物	11
第 13 図 天神ノ森・戎畑遺跡調査区位置図	13
第 14 図 戎畑遺跡02-1 区地形図	14
第 15 図 戎畑遺跡02-1 区出土遺物	14
第 16 図 天神ノ森遺跡02-1 区地形図	15
第 17 図 幡代遺跡・岡中遺跡調査区位置図	17
第 18 図 幡代遺跡02-2 区地形図	18

第19図	岡中遺跡02-1区地形図	19
第20図	岡中遺跡02-2区地形図	19
第21図	本田池遺跡調査区位置図	20
第22図	氏の松遺跡・岡田遺跡調査区位置図	21
第23図	氏の松遺跡02-1区地形図	22
第24図	座頭池遺跡調査区位置図	22
第25図	岡田遺跡01-4・02-1区地形図	23
第26図	岡田遺跡02-2区地形図	24
第27図	岡田遺跡02-3区地形図	24
第28図	上代石塚遺跡調査区位置図	26
第29図	中小路北遺跡、中小路西・坊主池遺跡調査区位置図	27
第30図	中小路北遺跡02-1区地形図	28
第31図	中小路北遺跡02-1区出土遺物	28
第32図	中小路西・坊主池遺跡02-1区地形図	29
第33図	中小路西遺跡01-1区地形図	30
第34図	大苗代遺跡・海会寺跡調査区位置図	31
第35図	大苗代遺跡02-1区地形図	32
第36図	下村遺跡調査区位置図	33
第37図	下村遺跡02-1区地形図	33
第38図	兎田遺跡調査区位置図	35
第39図	兎田遺跡02-1区地形図	35

表 目 次

第1表	平成14年発掘及び試掘届出一覧表	1
第2表	発掘調査一覧表	2
第3表	試掘調査一覧表	3
第4表	立会調査一覧表	3
第5表	文化財一覧表	38

図 版 目 次

P L . 1	泉南地域の文化財
P L . 2	泉南地域の地形分類
P L . 3	男里遺跡・光平寺跡、戎畑遺跡、天神ノ森遺跡調査区
P L . 4	幡代遺跡、岡中遺跡、氏の松遺跡、岡田遺跡、中小路北遺跡、中小路西・坊主池遺跡、大苗代遺跡、下村遺跡、兎田遺跡調査区

- P L . 5 男里遺跡02-1・2区
- P L . 6 男里遺跡02-3・5区、男里遺跡・光平寺跡02-4区
- P L . 7 男里遺跡02-6・7区
- P L . 8 男里遺跡02-7・01-7区
- P L . 9 戎畑遺跡02-1区、天神ノ森遺跡02-1区、幡代遺跡02-2区
- P L . 10 岡中遺跡02-1・2区、氏の松遺跡02-1区
- P L . 11 岡田遺跡02-1・2・3区
- P L . 12 岡田遺跡02-3・01-4区
- P L . 13 中小路北遺跡02-1区、中小路西遺跡01-1区、大苗代遺跡02-1区
- P L . 14 下村遺跡02-1区、兎田遺跡02-1区
- P L . 15 男里遺跡02-3・01-7区、男里遺跡・光平寺跡02-4区、戎畑遺跡02-1区、中小路北遺跡02-1区出土遺物

泉南市遺跡群発掘調査報告書XX

第1章 調査の経過

近年、市内における発掘及び試掘調査届出件数は減少傾向にある。今年も昨年に比して約1割減少している。内訳は、発掘調査届出件数が前年より2件少なくほぼ横這いであるが、試掘調査が19件と約半数に減少している。このうち、試掘調査は申請地の面積を比較しても前年の半分以下となっており、景気低迷を如実に示す内容である。

平成14年における発掘調査は第2表の通りである。このうち本書で報告するのは24件で、平成13年度の未報告分である3件を含む。用途別では個人住宅が大半を占め、分譲住宅及び宅地造成は以前に比べかなり減少している。なお、平成14年度に泉南市教育委員会以外が実施した市内遺跡の発掘調査が、男里遺跡において2件行われている。双子池堤体改修及び府道新設に伴うもので、前者は府教育委員会が、後者は(財)大阪府文化財センターがそれぞれ調査を実施している。

第1表 平成14年発掘及び試掘調査届出一覧表

平成14年12月31日現在

年 月	発 掘		試 掘		合 計	
	件 数	面積 (㎡)	件 数	面積 (㎡)	件 数	面積 (㎡)
14年・1	6	2,730.09	4	5,172.87	10	7,902.96
2	2	1,172.62	3	6,781.20	5	7,953.82
3	4	1,506.12	0	0.00	4	1,506.12
4	3	1,841.81	0	0.00	3	608.780
5	3	608.78	0	0.00	3	4,092.84
6	5	2,248.52	1	1,844.32	6	6,454.28
7	6	3,685.81	1	2,768.47	7	5,271.93
8	5	2,843.36	1	2,428.57	6	5,271.93
9	4	6,761.77	5	6,148.01	9	12,909.78
10	3	4,057.94	2	1,723.85	5	5,781.79
11	1	257.57	1	2,154.21	2	2,411.78
12	3	4,286.72	1	1,635.83	4	5,922.55
合計	45	32,001.11	19	30,657.33	64	62,658.44

第2表 発掘調査一覧表

平成14年12月31日現在

No	遺跡名	地区名	位置	面積(m ²)	用途	調査年月	備考
1	男里遺跡	02-1区	馬場	1339.49	共同住宅	14年11月	本書掲載
2	男里遺跡	02-2区	馬場	860.00	分譲住宅	14年4月	同上
3	男里遺跡	02-3区	男里	149.55	個人住宅	14年9月	同上
4	男里遺跡 光平寺跡	02-4区	男里	227.64	個人住宅	14年9月	同上
5	男里遺跡	02-5区	男里	771.68	個人住宅	14年9月	同上
6	男里遺跡	02-6区	男里	499.77	賃貸住宅	14年4月	同上
7	男里遺跡	02-7区	樽井	586.74	店舗	14年7月	同上
8	男里遺跡	02-8区	男里	500.00	農業関係	14年11～12月	府教育委員会調査。別書掲載。
9	男里遺跡	01-7区	男里	171.61	個人住宅	14年1月	本書掲載
10	戎畑遺跡	02-1区	樽井	198.00	個人住宅	14年5月	同上
11	天神ノ森遺跡	02-1区	男里	165.14	個人住宅	14年10月	同上
12	幡代遺跡	02-1区	幡代	3593.87	老人福祉施設	14年11月	トレンチ2箇所設定。協議中。
13	幡代遺跡	02-2区	幡代	417.36	個人住宅	14年12月	本書掲載
14	岡中遺跡	02-1区	信達岡中	160.20	個人住宅	14年7月	同上
15	岡中遺跡	02-2区	信達岡中	435.00	個人住宅	14年7月	同上
16	上代石塚遺跡	02-1区	信達牧野	298.13	販売事務所	14年2月	トレンチ1箇所設定。遺構遺物なし。(第28図)
17	本田池遺跡	02-1区	樽井	1051.04	分譲住宅	14年8月	トレンチ2箇所設定。遺構遺物なし。(第21図)
18	座頭池遺跡	01-1区	岡田	1575.59	墓地増設	14年2月	トレンチ1箇所設定。遺構遺物なし。(第24図)
19	氏の松遺跡	02-1区	岡田	300.54	個人住宅	14年7月	本書掲載
20	岡田遺跡	02-1区	岡田	346.00	個人住宅	14年4月	同上
21	岡田遺跡	02-2区	岡田	117.01	個人住宅	14年5月	同上
22	岡田遺跡	02-3区	岡田	1256.00	宅地造成	14年8月	同上
23	岡田遺跡	01-4区	岡田	213.82	個人住宅	14年2月	同上
24	中小路北遺跡	02-1区	中小路	202.07	個人住宅	14年4月	同上
25	中小路西遺跡 坊主池遺跡	02-1区	信達市場	6091.00	分譲住宅	14年9月	同上
26	中小路西遺跡	01-1区	中小路	131.29	個人住宅	14年2月	同上
27	大苗代遺跡	02-1区	信達大苗代	257.57	個人住宅	14年11月	同上
28	海会寺跡	02-1区	信達大苗代	97.29	分譲住宅	14年5月	トレンチ1箇所設定。遺構遺物なし。(第34図)
29	下村遺跡	02-1区	新家	355.00	個人住宅	14年9月	本書掲載
30	兎田遺跡	02-1区	兎田	217.00	個人住宅	14年7月	同上

第3表 試掘調査一覧表

平成14年12月31日現在

No.	遺跡名	位置	面積 (㎡)	用途	調査年月日	備考
1	範囲外	信達市場	2,179.28	分譲住宅	14年1月18日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
2	範囲外	信達牧野	497.16	分譲住宅	14年1月23日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
3	範囲外	岡田	493.86	共同住宅	14年1月24日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
4	範囲外	岡田	495.66	共同住宅	14年1月24日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
5	範囲外	樽井	904.38	修道院	14年3月8日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
6	範囲外	信達市場	1,514.12	共同住宅	14年3月20日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
7	範囲外	信達市場	3,725.15	宮農センター	14年3月25日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
8	範囲外	樽井1丁目	5,073.43	診療所増築	14年4月5日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
9	範囲外	信達市場	893.00	分譲住宅	14年4月23日	トレンチ2カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
10	範囲外	信達市場	803.39	長屋住宅	14年6月4日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
11	範囲外	新家	1,383.74	分譲住宅	14年10月29日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
12	範囲外	樽井	1,342.67	戸建住宅	14年11月5日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
13	範囲外	新家	338.36	宅地造成	14年11月11日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
14	範囲外	岡田	436.43	共同住宅	14年11月12日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。

第4表 立会調査一覧表

平成14年12月31日現在

No.	遺跡名	位置	面積 (㎡)	用途	調査年月日	備考
1	永寿池(下池)	信達牧野	73.50	農業関係	14年1月8日	遺構・遺物は確認されなかった。
2	新家古墳群	新家	522.69	個人住宅	14年1月16日	遺構・遺物は確認されなかった。
3	長山遺跡	馬場	264.00	個人住宅	14年1月31日	遺構・遺物は確認されなかった。
4	根来街道	信達牧野	76.00	道路	14年2月5日	遺構・遺物は確認されなかった。
5	戎畑遺跡	樽井	295.45	個人住宅	14年2月12日	遺構・遺物は確認されなかった。
6	男里遺跡・光平寺跡	男里	136.85	分譲住宅	14年6月17日	遺構・遺物は確認されなかった。
7	男里遺跡・光平寺跡	男里	146.97	分譲住宅	14年6月17日	遺構・遺物は確認されなかった。
8	坊主池遺跡	信達市場	150.00	分譲住宅	14年6月17日	遺構・遺物は確認されなかった。
9	男里遺跡	男里	501.96	個人住宅	14年8月6日	遺構・遺物は確認されなかった。
10	中小路南遺跡	中小路	126.81	個人住宅	14年8月16日	遺構・遺物は確認されなかった。
11	岡中遺跡	信達岡中	364.04	個人住宅	14年10月16日	遺構・遺物は確認されなかった。
12	男里遺跡	男里	100.03	分譲住宅	14年11月7日	遺構・遺物は確認されなかった。

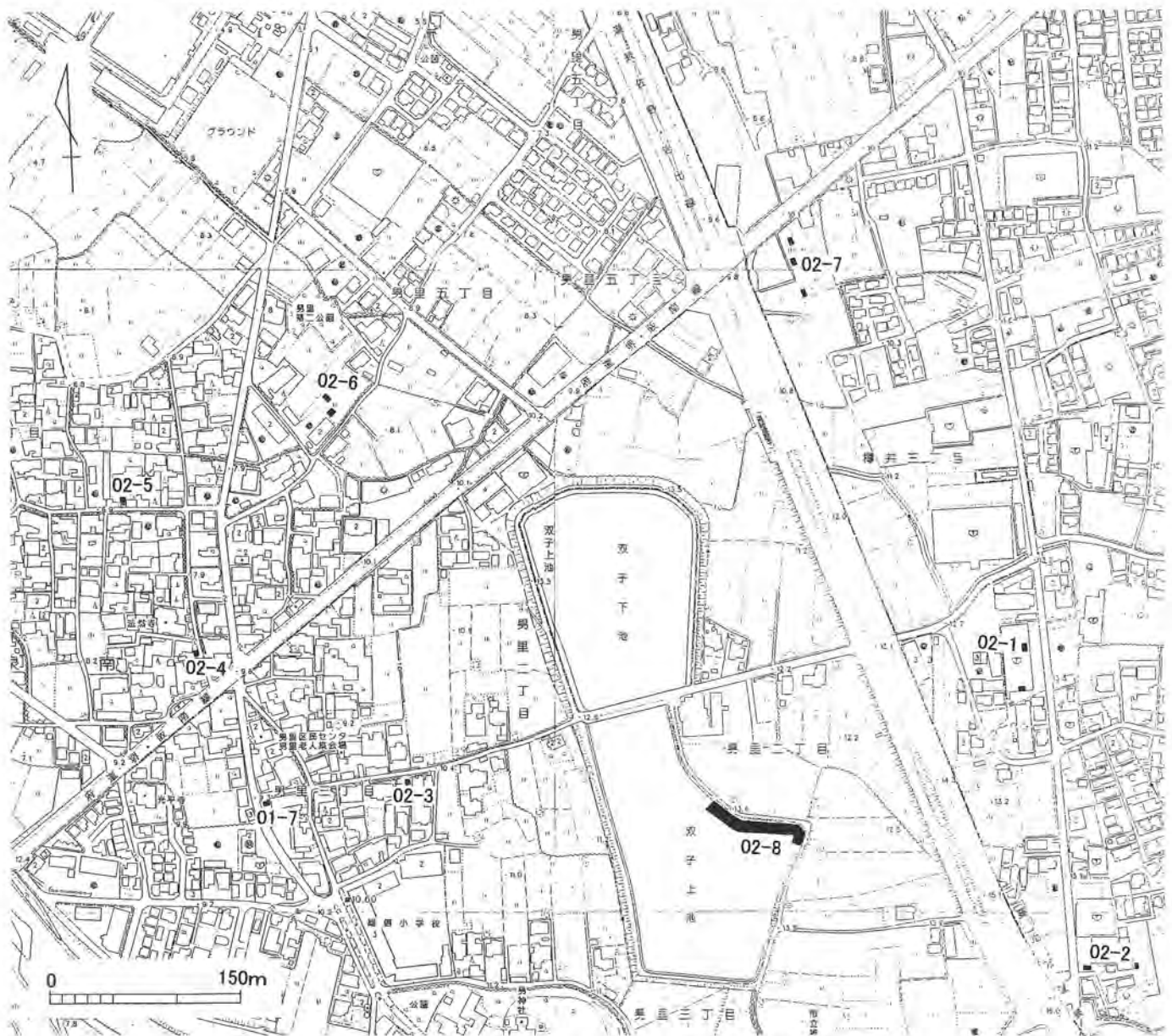
第2章 男里遺跡・光平寺跡の調査

第1節 既往の調査（P.L.1・2）

両遺跡は重複しており、男里遺跡の西部に光平寺跡が含まれる。男里川右岸に位置し、現男里集落の大半及び現馬場集落の西半とその間の耕作地がその範囲となる。地形分類は、旧男里川の旧河道とそれに起因する氾濫原及び谷底低地が遺跡中央を南北に分布し、旧河道左岸の現男里集落付近は自然堤防、旧河道右岸の現馬場集落付近は沖積段丘にあたる。

現時点での調査成果は、大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VI』（2002）に詳しい。ここでは両遺跡における中世までの集落の動態を主に概観する。

男里遺跡における調査成果の概要は以下の通りである。双子池下池でナイフ形石器が採集されてい



第1図 男里遺跡・光平寺跡調査区位置図

① 遺跡南東部では、遺構に伴うものではないが、縄文時代中期末～後期初頭の土器^②が確認されている。縄文時代晩期のピット^④、谷^⑤が現男里集落北東縁辺で確認されている。このうち谷埋土からは緑色片岩製石棒が出土している。弥生時代前期の遺構面が双子池上池西側堤体で確認されている^⑥。弥生時代中期前葉の谷が現男里集落北東縁辺で確認されており、埋土からは紅廉片岩製石鋸が出土している^⑦。弥生時代中期中葉～後葉の竪穴住居や掘立柱建物、木棺墓^⑧が現馬場集落南西側で確認されている。弥生時代後期末～古墳時代初頭の流路が双子下池で確認されている^⑩。古墳時代後期の竪穴住居、土坑が現男里集落北東縁辺で確認されている^⑪。飛鳥～奈良時代にかけての遺構が双子池周辺で確認されている。7世紀代では竪穴住居・掘立柱建物・土坑^⑬、7世紀後半から8世紀では流路・しがらみ^⑭が確認されている。このうち、7世紀後半から8世紀代の流路からは、土馬・墨書土器・窯体片・焼けひずみのみられる須恵器が出土している^⑮。

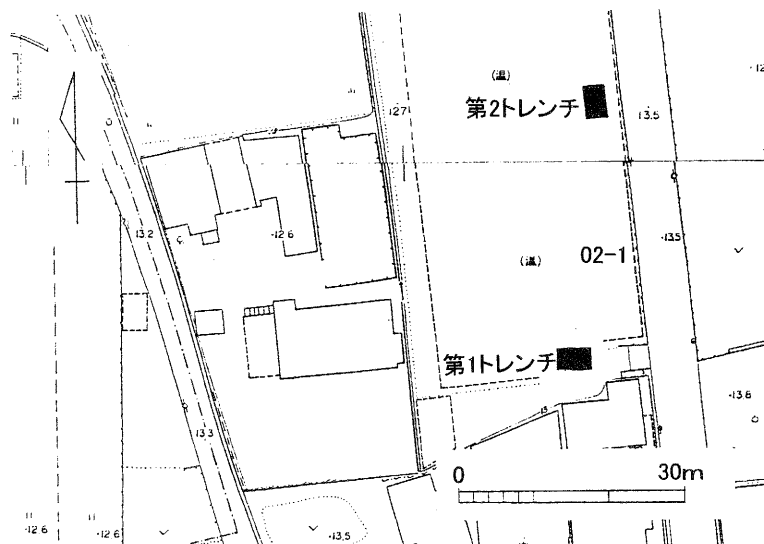
平安時代の掘立柱建物が双子池西側^⑯と遺跡北東部^⑰で確認されている。平安時代末から室町時代頃までの掘立柱建物や土坑が、現男里集落の北東縁辺^⑱及び西部^⑲、現馬場集落の南西側でそれぞれ確認されている。

光平寺跡は、平安時代末頃の寺院跡とされる^㉑。また、男里遺跡内南東部に「安良寺^㉒」の存在が想定されている。

第2節 ON02-1区の調査

1. 位置 (第1・2図)

調査区は双子上池の東側約300mの地点に位置している。地形分類上は沖積段丘面と氾濫原及び谷底低地の境界付近に立地している。調査区周辺では現在まで数多くの調査が行われており、遺跡内においても古代の遺構が多く検出されている地域である。同一区域内でおこなわれた90-7区の調査では、遺物の出土は少なかったものの、ピットや溝などの遺構を多数検出している^㉓。トレンチは2箇所設定した。



第2図 男里遺跡 02-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況 (PL.3・5)

第1トレンチの層序は、盛土(1層・約90cm)を除去すると、旧耕作土に相当する暗灰色土(2層・約20cm)、その直下には地山である暗黄褐色土(5層)が確認された。

第2トレンチでは、盛土(1層・約90cm)、暗灰色土(2層・約10cm)の下に、褐色混じり淡灰色土(3層・約10cm)、淡黒褐色土(4層・約20cm)が介在し、暗黄褐色土(5層)の地山にいたる。地山面の標高は第1トレンチが12.5m、第2トレンチが14.2mである。各層からの遺物の出土は認められなかった。

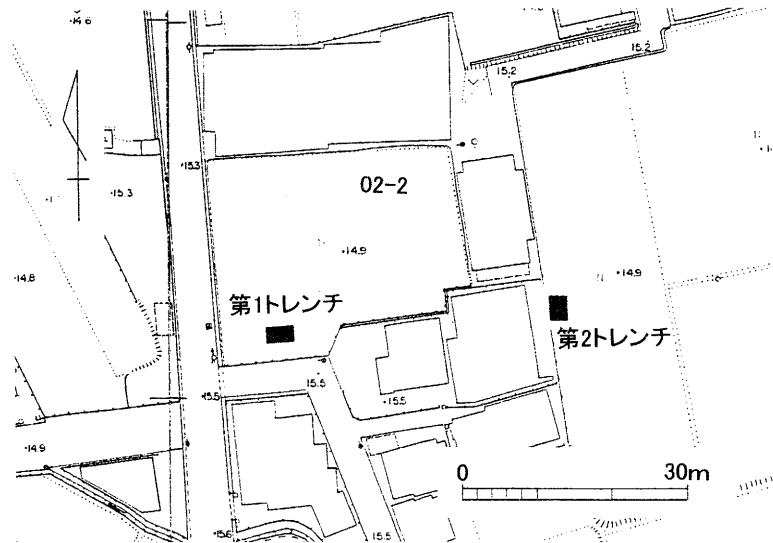
3. 遺構 (P L.3・5)

第1トレンチの地山面で溝を1条検出した。溝はほぼ南北方向にのび、幅1.2m、深さ約20cmを測る。埋土は黒褐色粘質土の単一層で、土師器の細片が1点出土した。90-7区の調査においても同様な溝が確認されており、今回の調査で検出した溝との関連性が伺われる。

第3節 ON02-2区の調査

1. 位置 (第1・3図)

調査区は、遺跡の南西部で、地形分類では沖積段丘に位置する。現馬場集落の南西端にあたり、本調査区以西には耕作地がひろがる。周辺では、調査区南西側における府道新設に伴う調査で、弥生時代Ⅲ～Ⅳ様式の竪穴住居や掘立柱建物、方形周溝墓などが確認されている^②。また、南西約50mの府教育委員会による調査では、木棺墓が確認されている^③。



第3図 男里遺跡 02-2区地形図

南東約50mの92-10区では13世紀の土坑などのほか^④、前述の府道新設に伴う調査では平安時代末～室町時代までの瓦が出土しており寺院の存在が想定されている^⑤。トレンチは2箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況 (P L.3・5)

南西側のトレンチを第1トレンチ、北東側のトレンチを第2トレンチとした。なお、両トレンチとも層序が異なる。

第1トレンチの層序は以下の通りである。舗装及び盛土(1層・約40cm)を除去すると、黒褐色シルト(2層・約10cm)、礫混じり茶褐色シルト(3層・約20cm)、礫混じり明茶褐色シルト(4層・約0~30cm)、礫混じり茶褐色シルト(5層・約40cm)と続き黄褐色シルト(6層)及び礫混じり黄褐色シルト(7層)の地山にいたる。2・3層は耕作土層である。断面をみると、5層をベースとして4層が斜面堆積を呈しているが、遺構ではなく自然地形と考えられる。精査は4・5層及び6・7層上面にて行ったが、明確な遺構は確認されなかった。遺物は、5層から土師質の土器片が1点のみ出土している。なお、周辺調査区における遺構検出面が、今回確認した各層位のいずれに対応するかは明確には判断できなかったが、おそらく6・7層上面が弥生時代の遺構面で4・5層上面が中世の遺構面に対応するのではなかろうか。

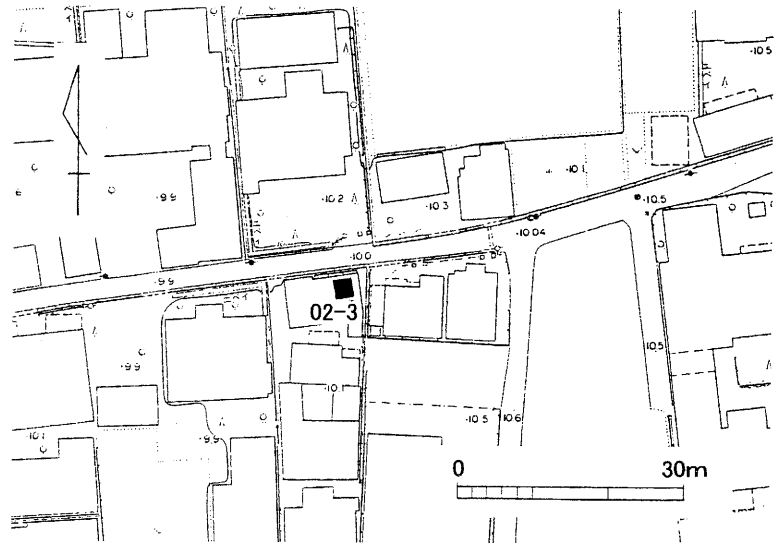
第2トレンチの層序は以下の通りである。舗装面及び盛土(1層・約20cm)、攪乱(2層・約60cm)を除去すると、礫混じり暗茶褐色シルト(3層・約50cm)、地山である礫混じり黄褐色シルト(4層)にいたる。3・4層は、いずれも5~20cm程の礫を多量に含む。3・4層上面で精査を行い、4層上面で径、

深さともに約30cm程の窪みを検出したが、埋土は3層と同じ土層であるなど層位の状況から、人為的な遺構とは考えにくい。植物痕などの自然的要因によるものであろう。いずれの層位からも遺物は出土していない。

第4節 ON02-3区の調査

1. 位置 (第1・4図)

調査区は、男里遺跡の西部で申請地が光平寺跡に一部含まれる。地形分類では自然堤防に位置する。現男里集落の南東端にあたる。周辺では、南約20mの89-10区[㊦]において、明確な時期は不明ではあるがピット・土坑・溝が、東南約10mの99-10区では須恵器や土師器を含む包含層が確認されている[㊦]。トレンチは1箇所を設定した。



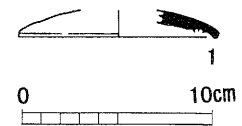
第4図 男里遺跡 02-3区地形図

2. 層位と遺物の出土状況 (P.L.3・6)

盛土 (1層・約30cm) を除去すると、淡黄色シルト (2層・約10cm)、灰白色シルト (3層・約30cm)、礫混じり黄褐色シルト (4層・約10cm)、黄褐色シルト (5層・約10cm)、褐灰色粗砂混じり礫 (6層・約20cm) と続き、灰色粗砂混じり礫 (7層・約30cm〜) にいたる。1層は建物解体に伴う盛土で、その他は自然堆積と考えられる。このうち、3層で須恵器、土師器が出土した。また、3・6層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

3. 遺物 (第5図、P.L.15)

1は須恵器杯である。3層から出土した。破損しているがかえりがつき、宝珠つまみをもつものと考えられる。外面に自然釉が付着している。7世紀後半。



第5図 男里遺跡 02-3区出土遺物

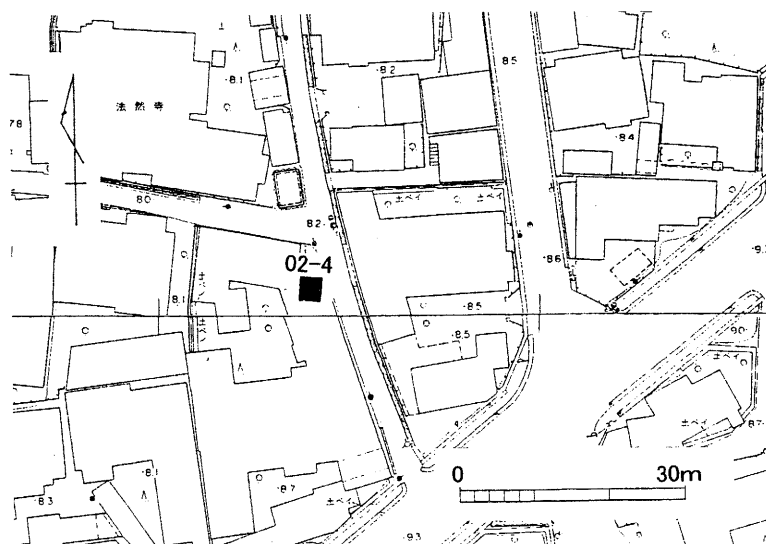
第5節 ON・KH02-4区の調査

1. 位置 (第1・6図)

調査区は、遺跡の西部で、地形分類では自然堤防に位置する。現男里集落の中央にあたり、周囲には家屋が密集する。周辺では、南西約50mの80-1区[㊦]で中世の掘立柱建物[㊦]、南東約30mの93-1区[㊦]では古墳時代のものとされるピット、北西約20mの80-2区と南東約30mの80-4区[㊦]で中世の包含層が確認されている[㊦]。トレンチは1箇所を設定した。

2. 層位と遺物の出土状況(PL.3・6)

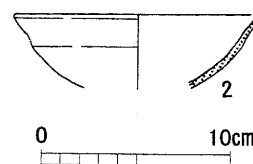
盛土(1層・約80cm)を除去すると、黒褐色シルト混じり礫(2層・約30cm)、茶褐色礫(3層・約30cm)と続く。以下は、トレンチが崩落する危険があり、工事に伴う掘削深度までは確認できる状態であったので掘削していない。1層は既存建物解体などに伴うもので、2層以下が旧河道の堆積作用に起因する自然堆積と考えられる。このうち、2層で瓦器が出土した。また、2・3層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。



第6図 男里遺跡・光平寺跡 02-4区地形図

3. 遺物(第7図、PL.15)

2は瓦器碗である。2層から出土した。摩耗が激しく調整は確認できない。口径12.8cm。12世紀後半か。

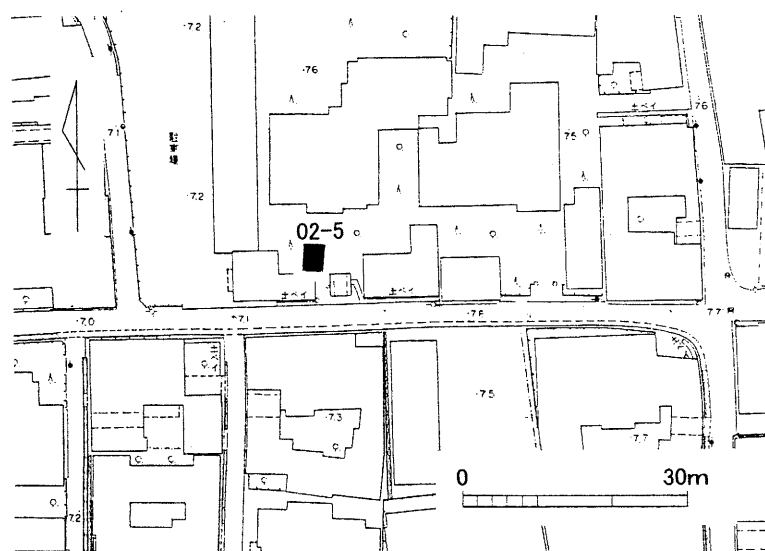


第7図 男里遺跡・光平寺跡 02-4区出土遺物

第6節 ON02-5区の調査

1. 位置(第1・8図)

調査区は、遺跡の北西部で、地形分類では谷底低地及び氾濫原に位置する。現男里集落の中央部にあたる。周辺では、南約50mの81-1・2区において中世のピットや溝、北東約50mの85-2区では時期不明の土坑、北約100mにおける市道男里北線では縄文時代晩期・弥生時代中期前葉、古墳時代後期、平安時代、鎌倉室町時代の遺構が確認されている。トレンチは1箇所設定した。



第8図 男里遺跡 02-5区地形図

2. 層位と遺物の出土状況(PL.3・6)

盛土(1層・約40cm)を除去すると、黒褐色シルト(2層・約10cm)、黄褐色シルト(3層・約20cm)、灰褐色シルト(4層・約5cm)がトレンチ南東に部分的にみられ、黒褐色シルト混じり礫(5層・30cm~)

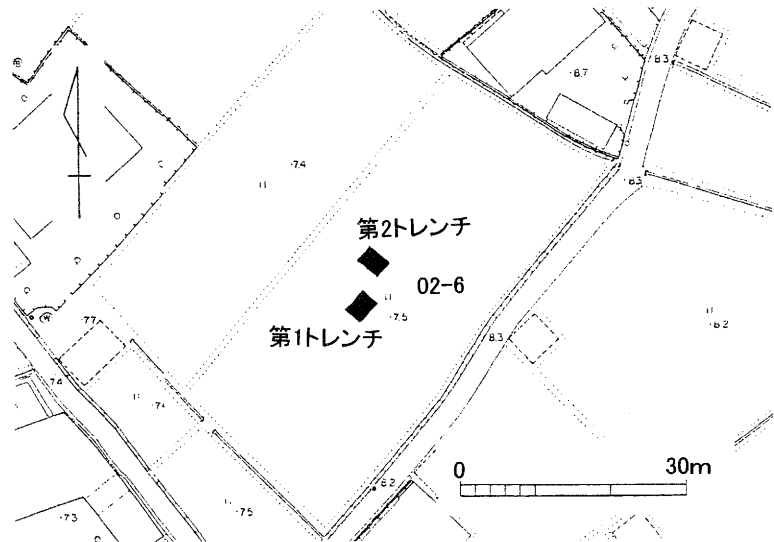
にいたる。1層は建物建築に伴う盛土。2・3層は宅地化以前の耕作土、5層は耕地化以前の自然堆積土と考えられる。なお、今回の調査では地山は確認できなかった。

このうち、3層で土師器、5層で弥生土器が出土した。また、3・5層上面で精査を行い、3層上面で2層を埋土とする柱穴を検出した。柱痕も確認されており、耕作地として利用されている際の掘立柱建物の柱穴と考えられる。近現代のものか。

第7節 ON02-6区の調査

1. 位置 (第1・9図)

調査区は双子下池の北東約300m、現在の男里集落の東側に位置する。地形分類上では男里川の氾濫原や旧河道上に立地しており、調査区の南側約20mの地点における調査では掘立柱建物を構成すると考えられるピットが検出されている^㉓。トレンチは2箇所設定した。



第9図 男里遺跡 02-6区地形図

2. 層位と遺物の出土状況 (P L.3・7)

層序は第1・2トレンチともに共通し、すべて水平に堆積している。現耕作土 (1層・約20cm) 及び暗褐色混じり黄褐色土 (2層・約10cm) を除去すると、灰色混じり明黄褐色土 (3層・約20cm)、明黄褐色土 (4層・約10cm) と続く。以下は暗灰色土 (5層・約10cm)、黒褐色粘質土 (6層・約30cm)、暗褐色砂質土 (7層) が堆積する。7層上面の標高は7.4mを測り、当層からは多量の湧水が認められた。遺物は3層から土師器の細片が少量出土している。遺構は確認できなかった。

第8節 ON02-7区の調査

1. 位置 (第1・10図)

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では沖積段丘低位面に位置する。現樽井集落の南西側約100mにあたる。周辺では、北側約10mの97-5区^㉔や、南東約50mの95-11区及びこれに隣接する調査区^㉕、西側約50mの府道新設に伴う調査^㉖で中世と考えられる包含層が確認されている。また、府道新設に伴う調査^㉗や95-3区^㉘では中世の耕作痕、95-10区^㉙では時期不明ではあるが土坑が検出されている。トレンチを3箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況 (P L.3・7・8)

各トレンチとも基本層序は同一で以下の通りとなる。黒褐色シルト (1層・約30cm) を除去すると橙灰色シルト (2層・約30cm)、黒褐色シルト (3層・約10cm) と続き、黄褐色シルト (6層) の地山にい

たる。

遺物は、各トレンチとも2・3層で土師質の細片を確認したが、明確な年代は判断しかねる。なお、3・6層上面で精査を行い、3層上面では第2・3トレンチで溝、6層上面では第2トレンチでピットを確認した。

3. 遺構

各トレンチ毎に検出した遺構を概観する。

第2トレンチでは3層及び6層上面で遺構を確認した。3層上面では溝を1条確認した。トレンチ長軸にほぼ平行し幅約70cm、深さ約20cm。遺構埋土は灰褐色シルト（4層）と黄褐色シルトブロック混じり黒褐色シルト（5層）の2層に分かれる。遺物は上層の4層から中世の真蛸壺や土師質土器の細片が出土した。5層が地山である黄褐色シルトと遺構面のベース層である黒褐色シルトがブロック状に混じり合っていることから、この溝は耕作痕と考えられる。

6層上面ではピットを1基確認した。径約30cm、深さ約15cmで埋土は黒褐色シルトである。柱痕は確認されず、遺物は出土していない。掘立柱建物を構成する柱穴とも考えられる。

第3トレンチでは3層上面において溝を2条確認した。

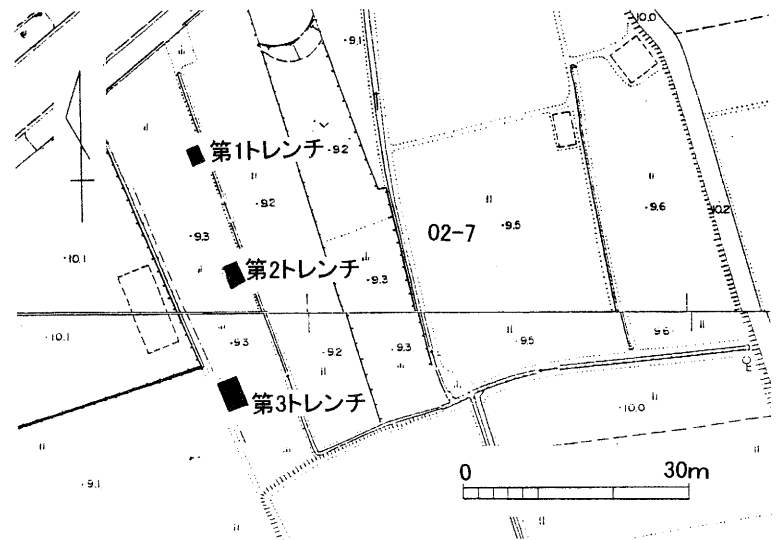
いずれも幅約20cm、深さ約10cm程で、いずれもトレンチ長軸にほぼ平行している。遺物は確認されなかった。規模及び平面プランから、耕作痕と考えられる。

以上の遺構の年代及び性格は、3層上面で確認されたものは中世以降の耕作痕でいずれも一連のものと考えられる。6層上面で確認されたピットは、中世の包含層と考えられる3層の直下、6層上面で検出されたことから中世以前の遺構と考えられるが、今回の調査成果だけでは掘立柱建物であるかどうかは判断できない。

第9節 ON01-7区の調査

1. 位置（第1・11図）

調査区は、遺跡の西部で、地形分類では自然堤防に位置する。現男里集落の南東部にあたり、西隣には光平寺が位置する。周辺の調査では、北約100mの56-3区で中世の溝^④、北西約150mの55-1区で中世の掘立柱建物と溝^④、南約50mの雄信小学校校舎増築に伴う調査では、古墳時代後期の溝が確認されている。トレンチは1箇所設定した。



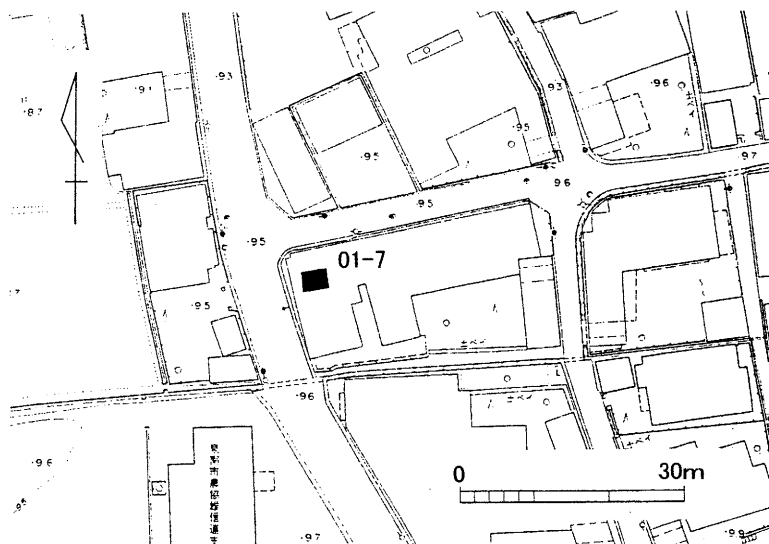
第10図 男里遺跡 02-7区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(P L.3・8)

盛土(1層・約40cm)を除去すると、灰色シルト(2層・約10cm)、褐灰色シルト(3層・約30cm)、黒褐色シルト(4層・約20cm)と続き、黄褐色シルト(5層)の地山にいたる。

いずれの層位からも遺物は出土していないが、過去の調査成果などから、2・3層は耕作土、4層は今回遺物が出土しなかったものの、遺跡北西部で広範囲にみられる10世紀後半代の包含層^④に対応する層位と考えられる。



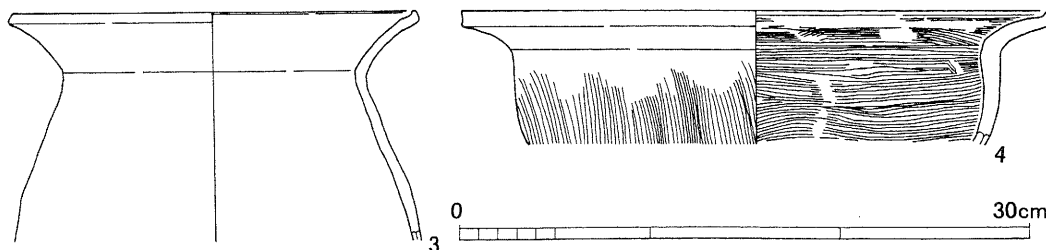
第11図 男里遺跡01-7区地形図

3. 遺構 (P L.3・8)

3・4・5層の上面で精査を行い、5層上面でSX01を検出した。トレンチ南西隅で遺構の一部のみを検出し、検出規模は半径約40cm、深さ約30cmである。おそらく、直径1m程の円形の遺構であろう。埋土は、黒褐色シルト(6層)、黒褐色シルトブロック混じり褐灰色シルト(7層)で、断面をみると6層と7層がほぼ垂直に切り合っている箇所がある。遺物は、6層から土師器甕が出土している。遺物の出土状況は、破片が折りかかっている状態であり、廃棄されたかのようなものである。

4. 遺物 (第12図、P L.15)

3・4はSX01埋土の下層から出土した。3は土師器甕である。口縁端部はヨコナデ。器壁の摩耗が激しく調整がわかりづらいが、外面は肩部以下に縦方向のハケメがわずかに残る。内面はナデで指頭痕が残る。口径22cm。4は土師器鍋である。口縁部は内面に横方向のハケメののち、内外面とも端部にヨコナデを施す。体部外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。口径32.4cm。8世紀前半か。



第12図 男里遺跡01-7区出土遺物

註 ① 大阪府教育委員会「既往の調査」『男里遺跡発掘調査概要・VI』(2002)
② (財)大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』(2001)
③ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VI』(2002)

- ④ 泉南市教育委員会「男里遺跡95-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIII』(1996)
- ⑤ 泉南市教育委員会「E区の調査」『市道男里北線改良に伴う男里遺跡発掘調査報告書』(2002)
- ⑥ ③と同じ。
- ⑦ ⑤と同じ。
- ⑧ ②と同じ。
- ⑨ 堀田啓一「第1章 原始の泉南」『泉南市史 通史編』泉南市史編纂委員会(1987)
- ⑩ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・I』(1997)大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・II』(1997)
- ⑪ 泉南市教育委員会『市道男里北線改良に伴う男里遺跡発掘調査報告書』(2002)
- ⑫ 泉南市教育委員会「男里遺跡96-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』(1997)
- ⑬ 泉南市教育委員会『男里遺跡発掘調査報告書』(1978)
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・I』(1997)
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・II』(1997)
- ⑭ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・I』(1997)
- ⑮ ⑬と同じ。
- ⑯ (財)大阪府埋蔵文化財協会『男里遺跡発掘調査報告書』(1994)
泉南市教育委員会「男里遺跡95-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIII』(1996)
- ⑰ ⑪と同じ。
- ⑱ 泉南市教育委員会『男里遺跡発掘調査報告書II』(1981)
- ⑲ (財)大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』(2001)
90-10区。泉南市教育委員会『泉南市遺跡群発掘調査報告書VII』(1991)に位置のみ表示。
- ⑳ ⑨と同じ。
- ㉑ 泉南市教育委員会「男里遺跡90-7区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書VIII』(1991)
- ㉒ ㉑と同じ。
- ㉓ ②と同じ。
- ㉔ ②と同じ。
- ㉕ 堀田啓一「第1章 原始の泉南」『泉南市史 通史編』泉南市史編纂委員会(1987)
(財)大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』(2001)
- ㉖ 泉南市教育委員会「調査の経過」『泉南市遺跡群発掘調査報告書VII』(1991)
- ㉗ ②と同じ。
- ㉘ 泉南市教育委員会「男里遺跡89-10区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書VI』(1990)
- ㉙ 泉南市教育委員会「男里遺跡99-10区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XVIII』(2001)
- ㉚ ⑬と同じ。
- ㉛ 泉南市教育委員会「男里遺跡93-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XI』(1994)
- ㉜ ㉙と同じ。
- ㉝ 泉南市教育委員会「56-1・2区の調査」『男里遺跡発掘調査報告書III』(1982)
- ㉞ 泉南市教育委員会「男里遺跡85-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書III』(1986)
- ㉟ ⑪と同じ。
- ㊱ 泉南市教育委員会「男里遺跡96-5区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』(1997)
- ㊲ 泉南市教育委員会「男里遺跡97-5区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XV』(1998)
- ㊳ 泉南市教育委員会「男里遺跡95-3・5区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIII』(1996)
泉南市教育委員会「男里遺跡95-10・11区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』(1997)
- ㊴ (財)大阪府埋蔵文化財協会『男里遺跡』(1994)
(財)大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』(2001)
- ㊵ ㊳と同じ。
- ㊶ ㊳と同じ。
- ㊷ ㊳と同じ。
- ㊸ 泉南市教育委員会「男里遺跡56-3区の調査」『男里遺跡発掘調査報告書III』(1982)
- ㊹ 泉南市教育委員会「男里遺跡55-1区の調査」『男里遺跡発掘調査報告書II』(1981)
- ㊺ 泉南市教育委員会「既往の調査」『市道男里北線改良事業に伴う男里遺跡発掘調査報告書』(2002)
- ㊻ 泉南市教育委員会「層序」『市道男里北線改良事業に伴う男里遺跡発掘調査報告書』(2002)

参考文献

- 古代の土器研究会『古代の土器1 都城の土器集成』(1992)・
森島康雄「瓦器腕」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会(1995)

第3章 戎畑遺跡の調査

第1節 既往の調査（P.L.1・2）

遺跡は現樽井集落の西側に位置し、地形分類では北東部が沖積段丘低位面であるほかは大半が氾濫原及び谷底低地にあたる。以前は耕作地であったが、近年宅地化が進む。

土地区画整備に伴う発掘調査で確認された遺跡で、以下に遺跡発見の契機となった土地区画整備に伴う95-1区の調査成果を概観する。^①

10世紀代の灌漑水路のほか、12世紀後半から15世紀にかけての掘立柱建物・土坑墓・火葬土坑・マダコ壺焼成土坑などが確認されている。

10世紀代に掘削された灌漑水路は、幅約4m、深さ約0.5m、検出長約100mで、13世紀代には完全に埋没している。

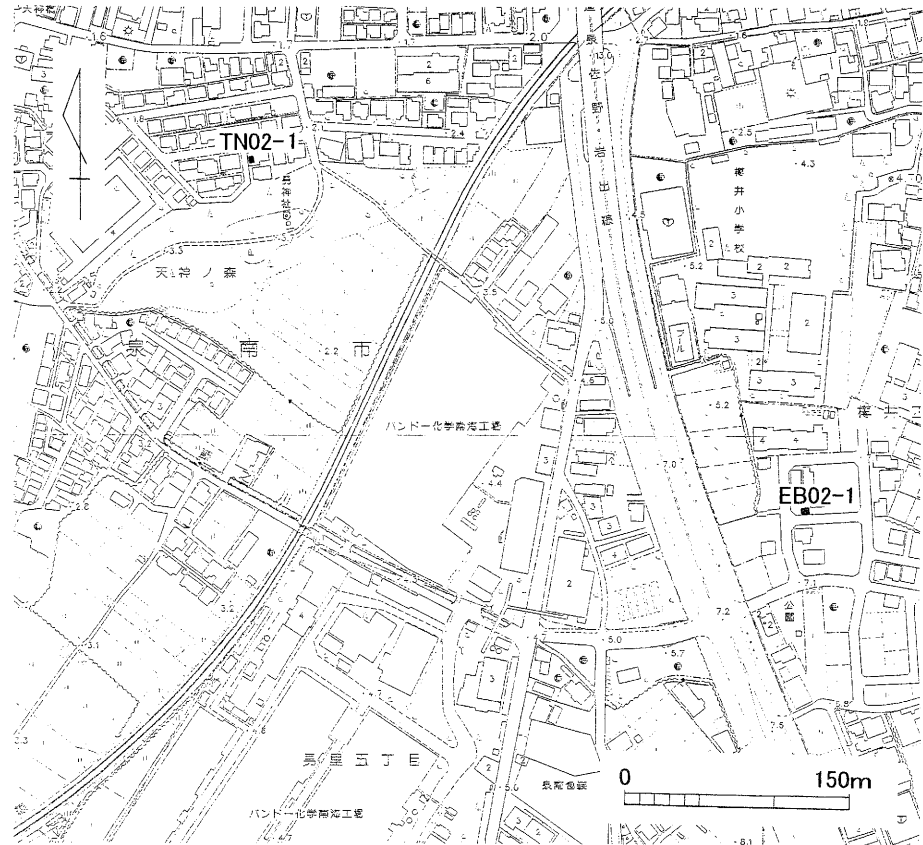
土坑墓からは、和鏡・灰釉陶器が出土している。火葬土坑は、平面長楕円形で側壁は被熱し赤変している。この火葬土坑は和泉市万町遺跡^②などで類例が確認されている。

マダコ壺焼成土坑は、径5m程の不正円形を呈するものと、長楕円形でロストル構造のものがみられる。同様の焼成土坑は、市内では男里遺跡^③・樽井南遺跡^④・新伝寺遺跡^⑤、市外では阪南市田山遺跡^⑥・箱作今池遺跡^⑦、泉佐野市上町東遺跡^⑧・湊遺跡^⑨で確認されている。

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第13・14図）

調査区は、遺跡の中央部で、地形分類では沖積段丘もしくは氾濫原及び谷底低地にあたる。遺跡発見



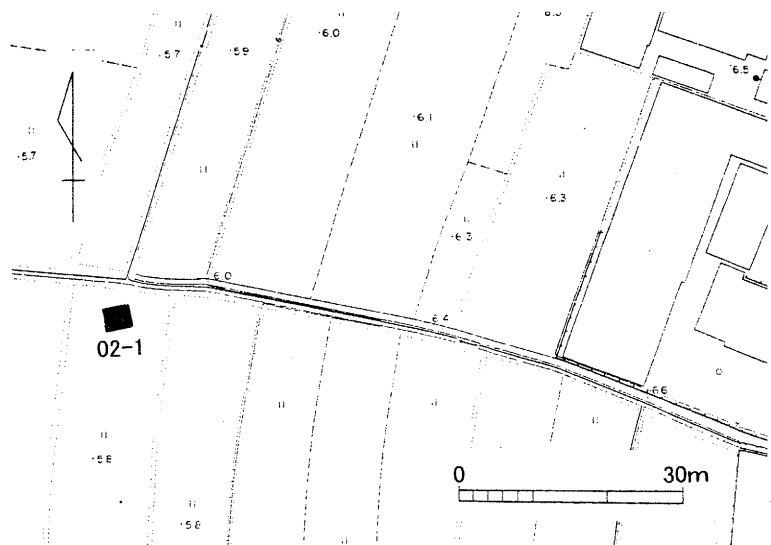
第13図 天神ノ森・戎畑遺跡調査区位置図

の契機となった95-1区と同じ区画内にあたる。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L.3・9)

盛土(1層・約100cm)を除去すると、黒褐色シルト(2層・約10~30cm)、灰褐色シルト(3層・約20cm)と続き、黄褐色シルト(6層)の地山にいたる。3・6層上面で精査を行い、6層上面で遺構を検出した。また、3層より土師器片が少量出土したが、いずれも小片のため時期は不明である。



第14図 戎畑遺跡02-1区地形図

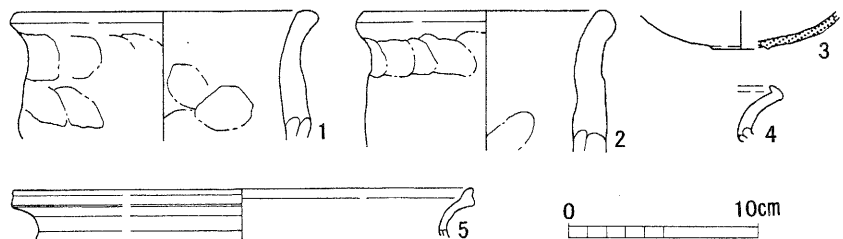
3. 遺構 (P.L.3・9)

地山である6層上面で、土坑を確認した。一部のみの検出であったため、規模は不明である。深さ10cm程で底面が平坦になっていることから、平面不整円の浅い土坑と考えられる。埋土は黒褐色シルト(4層)、礫混じり黒褐色シルト(5層)で、遺物はすべて5層から出土している。

なお、遺構及び遺物の検出状況から、6層上面の遺構面が後世における削平など何らかの影響を受けていることが想定できる。遺物の出土状況が破砕された状態のものばかりであり、東側断面をみると地山面が平坦ではない。調査区が狭小であるため、あくまで推測でしかないが、指摘しておく。

4. 遺物 (第15図、P.L.15)

図示する遺物はSX01から出土した。1・2は土師質真蛸壺である。頸部を横方向からのユビオサエにより口縁端部をつまみだす。内外面とも指頭痕が残る。3は瓦器碗である。



第15図 戎畑遺跡02-1区出土遺物

摩耗が激しく調整はわかりづらい。4は土釜である。口縁端部内外面にヨコナデを施す。5は土師質甕である。口縁端部にヨコナデを施す。口径24.4cm。4・5とも紀伊型か。

- 註 ① 泉南市教育委員会『戎畑遺跡発掘調査現地説明会資料』(1996)
 城野博文「泉南市戎畑遺跡の調査」『大阪府埋蔵文化財研究会(第35回)資料』(財)大阪府文化財調査研究センター(1997)
 泉南市教育委員会「戎畑遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XV』(1998)
 ② 和泉丘陵遺跡調査会『万町遺跡』(1991)
 ③ 泉南市教育委員会『市道男里北線改良事業に伴う男里遺跡発掘調査報告書』(2002)
 ④ 泉南市教育委員会「樽井南遺跡96-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』(1997)
 ⑤ 泉南市教育委員会「新伝寺遺跡」『泉南市文化財年報No.1』(1995)
 ⑥ (財)大阪文化財センター『田山遺跡』(1983)
 ⑦ 阪南町教育委員会「箱作今池遺跡88-2区」『阪南町埋蔵文化財発掘調査概要IV』(1989)
 ⑧ (財)大阪府埋蔵文化財協会『中開遺跡III・上町東遺跡』(1994)
 ⑨ 泉佐野市教育委員会「湊88-13区」『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要IX』(1989)

参考文献

渋谷高秀「和泉国における土器の生産と流通」『中近世土器の基礎研究V』日本中世土器研究会(1989)

第4章 天神ノ森遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L.1・2）

遺跡は男里川右岸に位置し、地形分類では洪積段丘低位面にあたる。現在遺跡の範囲となっている部分の大半は男神社の境内で、周辺の住宅地を一部含んでいる。昭和9年に倒木の根元から6世紀代の須恵器甕が発見されている^①。1991年以降、今年度の調査を含めて6件の調査が行われている。いずれも遺跡の大半を占める神社境内地以外における調査で、遺構及び遺物は確認されていない。遺跡の北部にあたる91-1・2区^②や97-2区^③では、近現代の盛土もしくは耕作土直下で砂層が確認されている。遺跡の南部にあたる94-1区^④では近現代の盛土直下でシルト層が確認されている。いずれの調査区においても不安定な地形であったことが想定される。

第2節 02-1区の調査

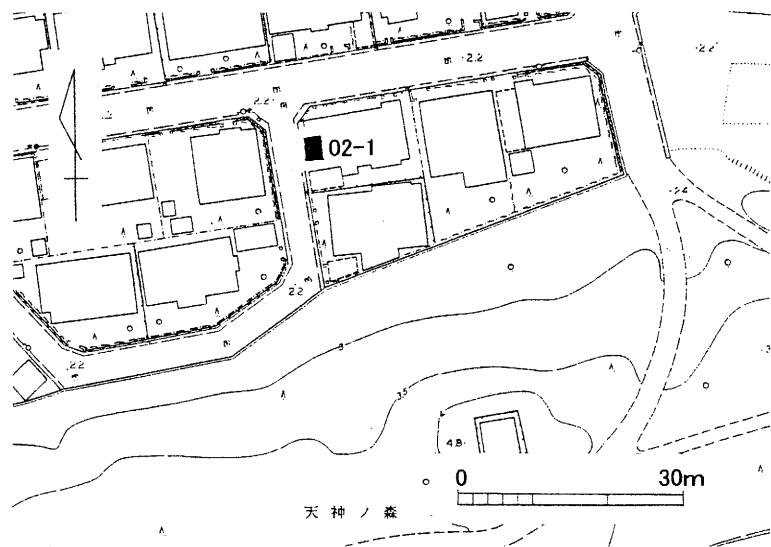
1. 位置（第13・16図）

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

（P L.3・9）

盛土（1層・約60cm）を除去すると、宅地造成に伴う盛土（2層・約80cm）が確認された。これ以下での掘削は湧水が激しかった。



第16図 天神ノ森遺跡02-1区地形図

- 註 ① 堀田啓一「第1章 原始の泉南」『泉南市史 通史編』泉南市史編纂委員会（1986）
② 泉南市教育委員会「天神ノ森遺跡91-1・2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書IX』（1992）
③ 泉南市教育委員会「天神ノ森遺跡97-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XV』（1998）
④ 泉南市教育委員会「天神ノ森遺跡94-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIII』（1996）

第5章 幡代遺跡の調査

第1節 既往の調査（PL.1・2）

ここでは隣接する幡代南遺跡の調査成果を含めて、両遺跡の関連性について概観したい。

両遺跡は、金熊寺川右岸に位置し、現幡代集落及びその東側に分布するのが幡代遺跡、その南側に隣接するのが幡代南遺跡である。地形分類では、幡代南遺跡の南西部が旧河道であるほかは、沖積段丘にあたる。現在、幡代遺跡の西半にあたる現幡代集落以外は、耕作地として利用されている。

幡代遺跡及び幡代南遺跡における主な調査成果として、(財)大阪府埋蔵文化財協会による府道新設に伴う調査があげられる。また、幡代遺跡では遺跡を東西に横断する市道拡幅に伴う調査もあげられる。以下、これらの調査をもとに両遺跡を概観する。

〔幡代遺跡〕府道新設に伴う調査では、遺構面が2面確認されている^①。中世の包含層である耕作土直下の黄色土上面では鎌倉時代から室町時代における2棟の掘立柱建物、中世の井戸などが検出されている。中世の井戸の大半は灌漑目的のものとされる。中世の遺構が確認された黄色土は石包丁が出土しており弥生時代の堆積と認識されている。また黄色土直下の砂礫層では、不定形の落ち込みが確認されている。

市道拡幅に伴う調査では、2カ年にわたって行われた^②。92-1区では、2面の遺構面が確認された。上層では掘立柱建物・溝・土坑などの遺構が確認され、瓦器・瓦などが出土している。下層では時期不明の土坑などが確認されたが、遺物が出土していないため時期は不明である。93-1区では、18～19世紀の落ち込みを確認した。遺物は波佐見焼が大半を占め、製糖に用いる「瓦漏」が出土している。なお、「瓦漏」は男里遺跡^③でも出土している。

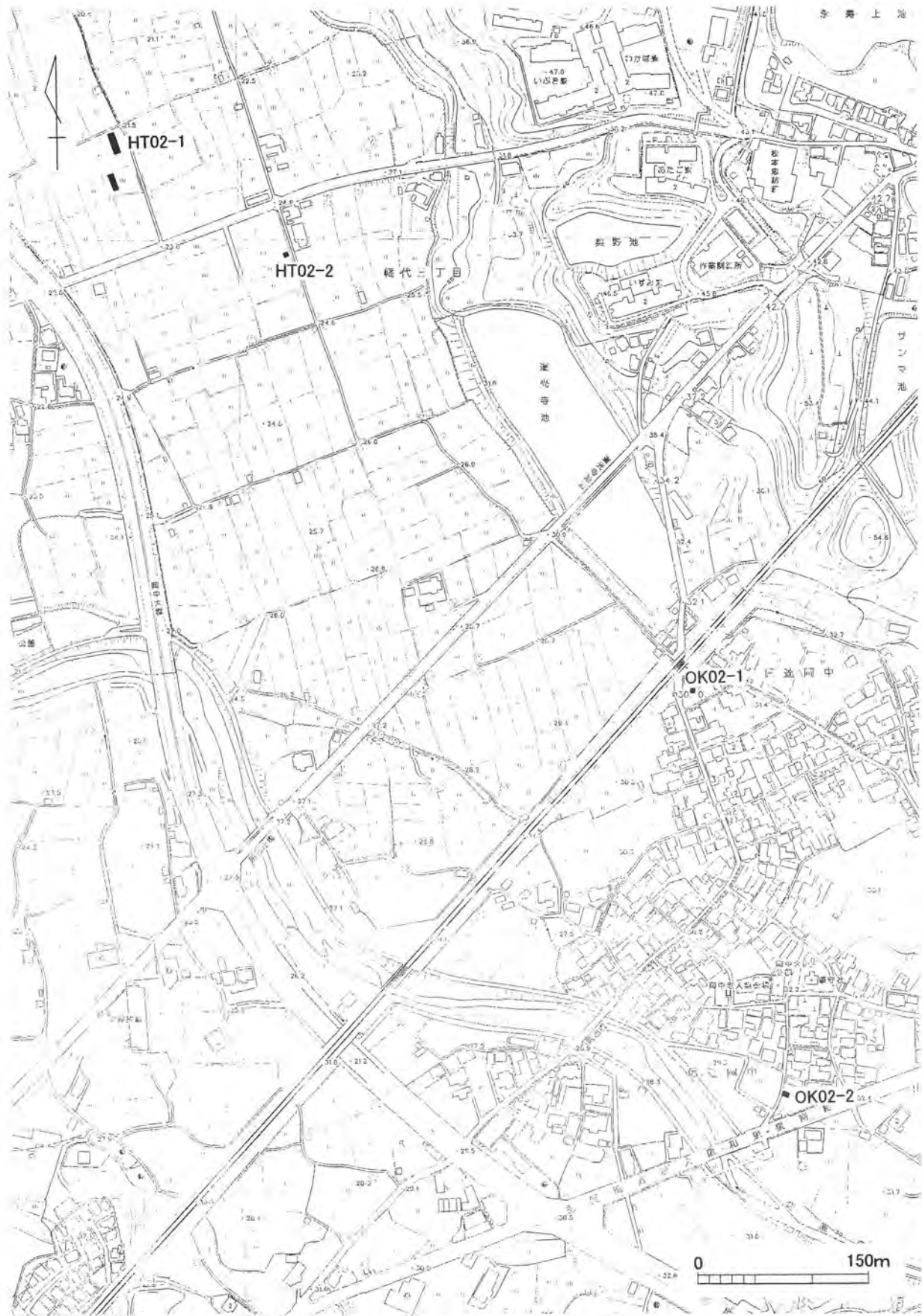
〔幡代南遺跡〕府道新設に伴う調査では、中世末～近世初頭以降の「水田面」を検出している^④。「条里型地割」を呈する現在の水田地割りとほぼ一致するもので、その上限を示す資料といえよう。水田が確認された下層では、瓦器や黒色土器の出土する黒褐色泥層が確認されている。黒褐色泥層の下層では、流路が確認されており弥生時代以降の遺物が出土している。

両遺跡で確認されている遺構は、性格を異にする。つまり、利用形態が異なると想定できる。幡代遺跡では、一部に灌漑目的の井戸が確認されているものの掘立柱建物などが確認されていることから、鎌倉時代以降には居住域として利用されていたことが指摘できる。幡代南遺跡では少なくとも中世末以降には耕作地として利用されていたことが確認されている。両遺跡における以降の上限に時期差があるが、耕作地下層の黒褐色泥層は低湿地状であったことを示すことから、府道新設に伴う調査で確認された掘立柱建物に対応する時期の耕作地が存在する可能性は高い。つまり、両遺跡は一集団の居住域と生産域であり、幡代遺跡が居住域で幡代南遺跡がその生産域（耕作地）と想定できる。

第2節 02-2区の調査

1. 位置（第17・18図）

調査区は、幡代遺跡の南東端にあたり、幡代南遺跡と接する地点に位置する。地形分類では沖積段丘



第17図 幡代遺跡・岡中遺跡調査区位置図

に位置する。周囲は耕作地として利用されており、市道拡幅に伴う調査が行われた92-1区^⑤に隣接する。92-1区では、掘立柱建物などの遺構とともに瓦器などの遺物が確認されている。トレンチは一箇所設定した。

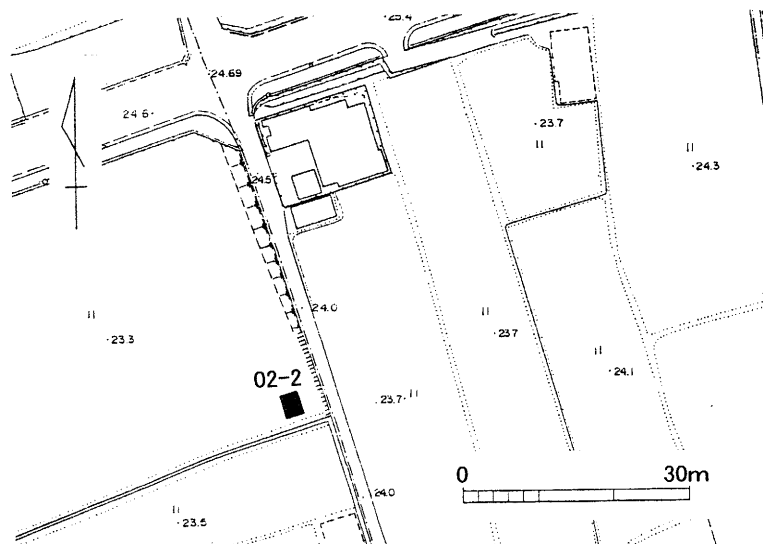
2. 層位と遺物の出土状況

(P L.4・9)

盛土(1層・約80cm)を除去すると、灰褐色シルト(2層・約20cm)、黒褐色シルト(3層・約20cm)と続き黄褐色シルト(4層)にいたる。

このうち4層上面において一部礫層

がみられる箇所があった。いずれの層位からも遺物は出土せず、3・4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。



第18図 幡代遺跡02-2区地形図

- 註 ① 橋本 哲「幡代遺跡」『大阪府下埋蔵文化財研究会(第30回)資料』(財)大阪文化財センター(1994)
- ② 泉南市教育委員会「幡代遺跡」『泉南市文化財年報No.1』(1995)
平成4年度の調査が92-1区、平成5年度の調査が93-1区。調査区の位置は以下の文献に記載されている。
泉南市教育委員会「幡代遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X』(1993)
泉南市教育委員会「幡代遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XI』(1994)
- ③ 泉南市教育委員会「D区の調査」『市道男里北線改良事業に伴う男里遺跡発掘調査報告書』(2002)
- ④ 田中一廣「幡代南遺跡」『大阪府下埋蔵文化財研究会(第30回)資料』(財)大阪文化財センター(1994)
「幡代南遺跡・幡代遺跡の調査」『歴研通信』第8号 泉南市歴史研究会(1993)
- ⑤ ②と同じ。

第6章 岡中遺跡の調査

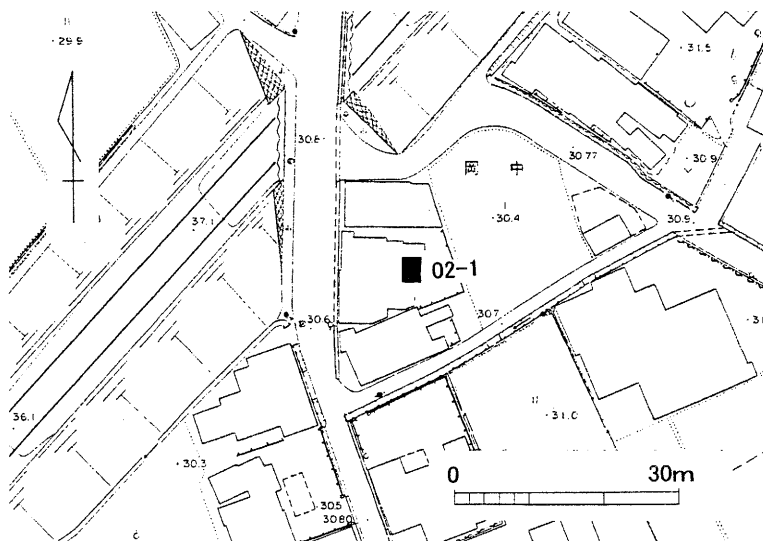
第1節 既往の調査（P.L.1・2）

遺跡は、金熊寺川右岸に位置し、その範囲は現岡中集落とほぼ重複する。地形分類では、沖積段丘に位置する。遺跡内には、鎮守社境内に府指定天然記念物である大樟・マキの木があるほか、集落内を北東から南西に通る道は熊野街道^①に比定されている。周辺では、遺跡北東に位置する林昌寺裏山の竹藪から、扁平鈕式銅鐸が発見されている^②。

これまでの調査で確認された遺構は、中世以降のもので、現岡中集落内に分布する。平安時代末以降の瓦

類が確認されたことから寺院跡の存在が想定されているほか^③、室町時代の土坑墓や鍛冶関連施設^④が確認されている。

また、周辺の遺跡では、平安時代末の林昌寺瓦窯のほか^⑤、呪符が出土した14世紀後半以前の石組み井戸^⑥や掘立柱建物、15世紀初頭に盛土による整地や池状遺構が確認された岡中西遺跡^⑦など、中世以降の遺構が多い。

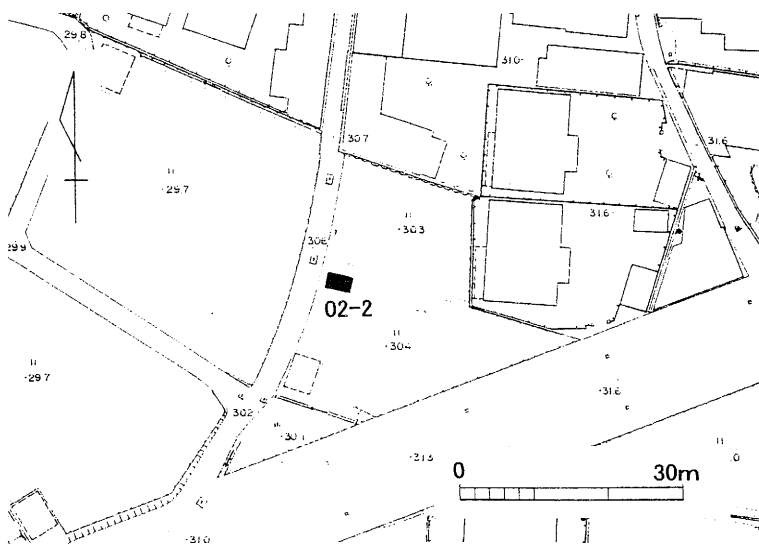


第19図 岡中遺跡02-1区地形図

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第17・19図）

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では沖積段丘に位置する。既往の調査が集落中央の岡中鎮守社付近以南が大半を占める。今回の調査は現集落の北端付近においてはじめての調査となる。トレンチは1箇所設定した。



第20図 岡中遺跡02-2区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L.4・10)

盛土（1層・約50cm）を除去する

と、灰褐色シルト（2層・約10cm）、黒褐色シルト（3層・約40cm）と続き、礫混じり黒褐色シルト（4層）の地山にいたる。1・2層は現代耕作土。その他は自然堆積と考えられる。いずれの層からも遺物は出土せず、3・4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

第3節 02-2区の調査

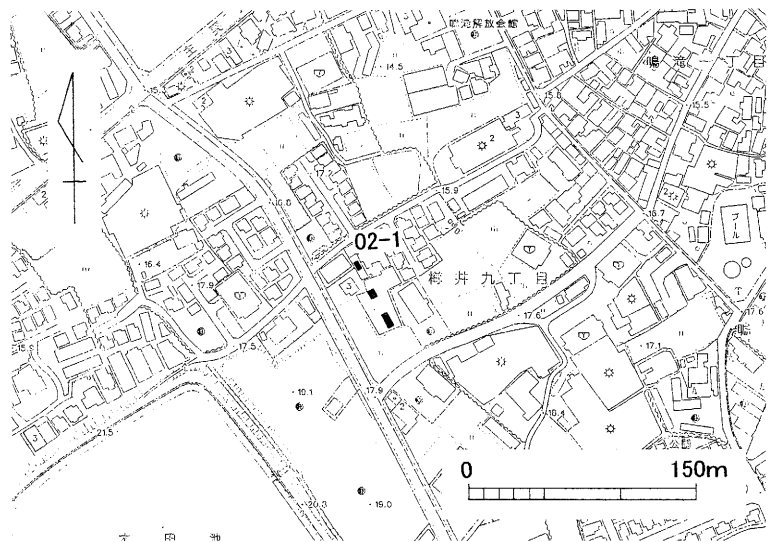
1. 位置（第17・20図）

調査区は、遺跡の中央部で、地形分類では沖積段丘に位置する。現岡中集落の南端にあたり、調査区の南西約50mには金熊寺川及びその河岸段丘がみられる。周辺は、00-1・2区^⑧において明確な時期は不明ではあるが礫層が確認されていることから、金熊寺川の氾濫作用による影響を受けて形成されたことが想定できる。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況（P.L.4・10）

黒褐色シルト（1層・約30cm）を除去すると、褐灰色シルト（2層・約10cm）、礫混じり茶褐色シルト（3層・約10cm）、礫混じり黄褐色シルト（4層・約10cm）、礫混じり灰褐色シルト（5層・約5cm）、黄褐色シルト（6層・約5cm）と続き、礫混じり暗褐色粗砂（7層）にいたる。このうち、5層で土師器、陶磁器が出土した。近世以降の堆積と考えられる。なお、1・2層は現代耕作土で、その他は自然堆積であろう。6層は地山と考えられる。5・6層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

- 註 ① 大阪府教育委員会『熊野・紀州街道論考編—歴史の道調査報告書第1集—』（1987）
 ② 堀田啓一「第1章 原始の泉南」『泉南市史 通史編』泉南市史編纂委員会（1987）
 ③ 1987年度の泉南市教育委員会による調査。
 ④ ③と同じ。
 ⑤ 泉南市教育委員会「林昌寺瓦窯」『泉南市文化財年報No.1』（1995）
 ⑥ 泉南市教育委員会「岡中西遺跡」『泉南市文化財年報No.1』（1995）
 ⑦ （財）大阪府埋蔵文化財協会『岡中西遺跡』（1988）
 ⑧ 泉南市教育委員会「岡中遺跡01-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XVIII』（2001）
 泉南市教育委員会「岡中遺跡01-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIX』（2002）



第21図 本田池遺跡調査区位置図

第7章 氏の松遺跡の調査

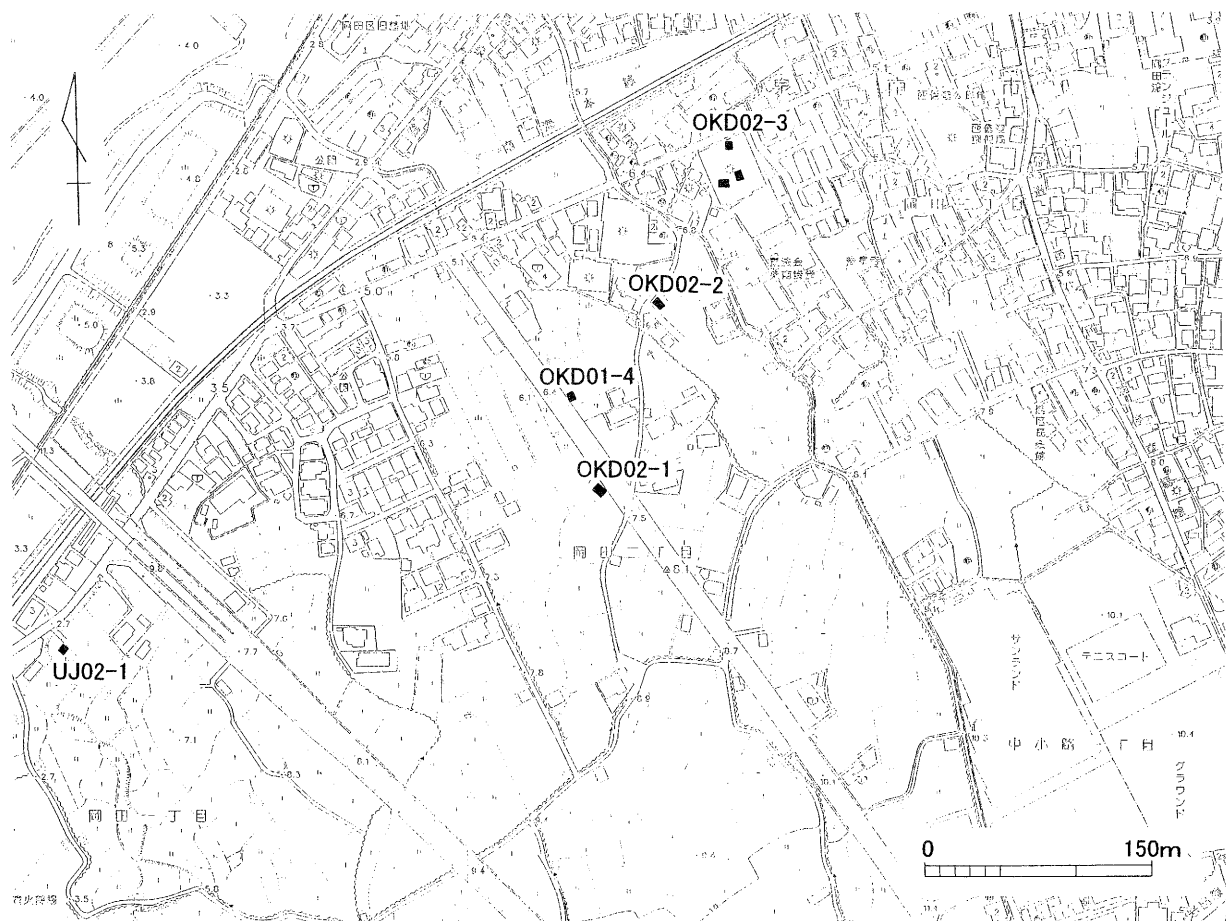
第1節 既往の調査（P L.1・2）

遺跡は現岡田集落の南西側、りんくうタウン埋め立て以前の旧海岸線沿いに位置する。地形分類では洪積段丘低位面に位置し、現在その大半が耕作地として利用されている。

市道新設に伴い発見された遺跡で、調査では弥生時代前期の集落、中世の耕作痕及び水路や井戸などの灌漑遺構が確認されている^①。なお、上記の市道新設に伴う発掘調査以外に、個人住宅建設などに伴う調査がいくつか行われている^②。

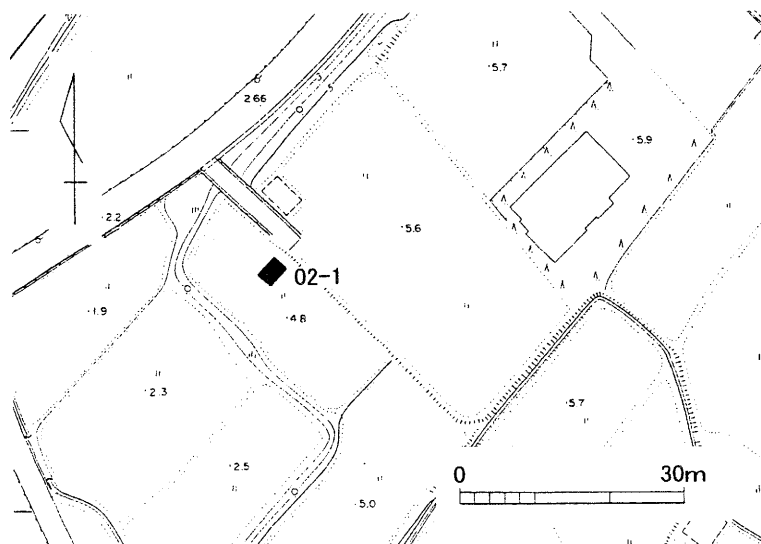
以下、市道新設に伴う発掘調査成果を概観する。弥生時代前期の集落は、掘立柱建物で構成され、棟持柱をもつものもみられる。前期中段階の土器が出土しており、突帯文土器は伴わない。出土した弥生土器のうち、甕は口縁端部からやや下がる位置に突帯がめぐる。なお、氏の松遺跡の集落は、弥生時代前期の間だけ存続したようで、弥生時代末の遺構が確認された岡田東遺跡^③以外は榎井川左岸下流域で集落遺跡は現時点では確認されていない。

中世の耕作痕は12～14世紀と14世紀末のもので、前者は耕作痕や水路、後者は井戸が確認されている。確認された水路は現在の灌漑水路網とほぼ重複する。12世紀代には、現在の水路網の原型となるものが



第22図 氏の松遺跡・岡田遺跡調査区位置図

構築されていたことが想定できる。また、14世紀末には灌漑用の井戸がみられ、さきに触れた水路は埋没し機能を停止する。14世紀末には主な灌漑施設が、水路から井戸へと移行していることがわかる。中世における耕地開発の変遷を知る上で興味深い資料と言える。



第23図 氏の松遺跡02-1区地形図

第2節 02-1区の調査

1. 位置 (第22・23図)

調査区は、遺跡の北西端で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。南海電鉄線路沿いの段丘崖端部にあたり、本調査区の南東約100mでは弥生時代前期の集落が確認されている。周辺では、99-1区において、地山直上面で近代の粘土採掘坑が確認されている。^④ トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況 (P.L.4・10)

黒褐色シルト (1層・約10cm) を除去すると、黄褐色シルト (2層・約30cm)、黄褐色シルト混じり礫 (3層・約30cm) と続き、灰白色シルト混じり礫 (4層) にいたる。1・2層は現代耕作土、3層以下は地山と考えられる。3・4層上面で精査を行ったが遺構は確認されず、いずれの層位からも遺物は出土していない。

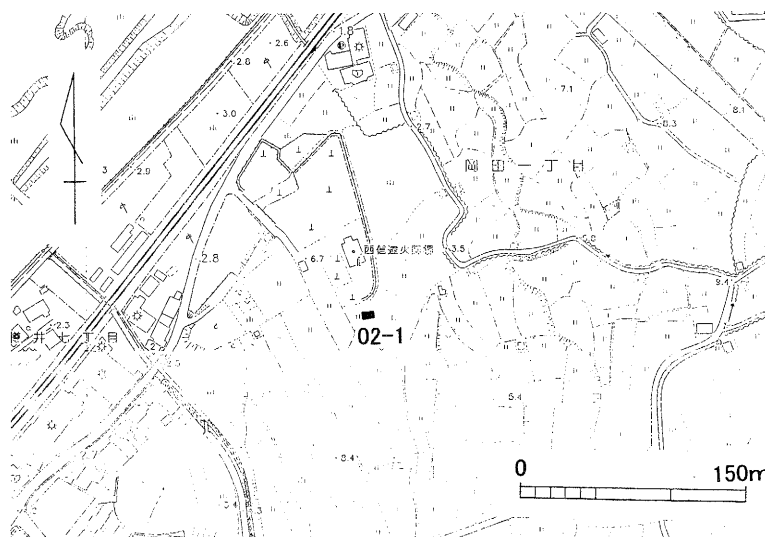
註 ① 泉南市教育委員会『岡田西・氏の松遺跡発掘調査報告書』(1995)

② 泉南市教育委員会「氏の松遺跡99-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XVIII』(2001)

③ 泉南市教育委員会「岡田東遺跡91-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X』(1993)

石橋広和「弥生時代終末期における和泉南部地域の集落遺跡の変化」『古代』第99号 早稲田大学考古学会 (1995)

④ 泉南市教育委員会「氏の松遺跡99-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XVIII』(2001)



第24図 座頭池遺跡調査区位置図

第8章 岡田遺跡の調査

第1節 既往の調査（P.L.1・2）

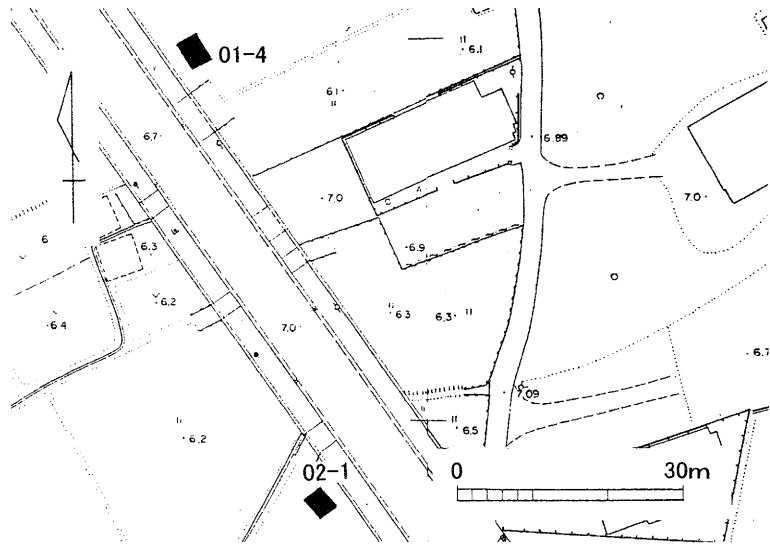
遺跡は現岡田集落の南東側に位置し、地形分類では洪積段丘低位面にあたる。現在遺跡の大半が耕作地として利用されている。岡田集落は岡田浦とも呼ばれ、近世には廻船業や漁業で賑わい、19世紀代には製糖に伴う甘蔗栽培が行われていた^①。

90-3区では凹基無基石鏃^②、90-2区では古代の須恵器^③が確認されているが、いずれも明確な遺構に伴うものではない。これまでに確認された遺構は中世以降のもので、遺構の種類により遺跡内で分布に偏りがみられる。北東側の岡田集落縁辺では集落に伴うものが、南西側の耕作地として利用されている付近では耕作地に伴うものが確認されている。遺跡北東側では、97-1・2区で15世紀代の掘立柱建物と考えられる柱穴が確認されている^④。遺跡の南西側、市道中小路岡田線新設に伴う発掘調査では、中世以降の流路や耕作痕が確認されている^⑤ほか、市道周辺の調査で耕作痕などが確認されている。このことから、遺跡内における土地利用の形態は中世以降変化していないと想定できる。

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第22・25図）

調査区は、遺跡の北東部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現岡田集落の西側にあたり、周辺は耕作地として利用されている。周辺では、北約50mの01-2区で時期不明の流路、近接する市道新設に伴う95-2区で中世以降の耕作痕や流路が確認されている。トレンチは1箇所設定した。



第25図 岡田遺跡 01-4・02-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況（P.L.4・11）

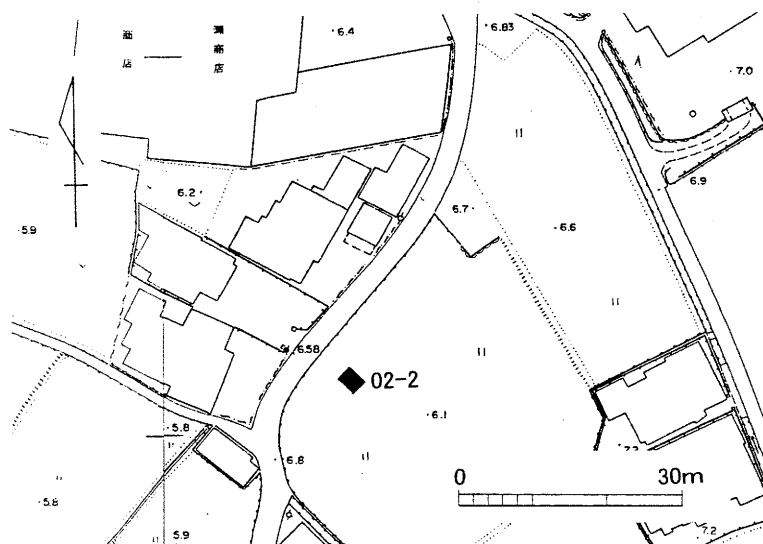
黒褐色シルト（1層・約10cm）を除去すると、黄色粘土ブロック混じり褐灰色シルト（2層・約10cm）、褐灰色シルト（3層・約30cm）と続き、黄色粘土（4層）の地山にいたる。

1～3層は耕作土層で、4層は95-2区で確認された遺構面と対応する。3・4層上面で精査を行ったが遺構は確認されず、いずれの層位からも遺物は出土していない。

第3節 02-2区の調査

1. 位置（第22・26図）

調査区は、遺跡の北西部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現岡田集落の南西縁辺にあたり、現況は住宅地として造成されているが、近年までは耕作地として利用されていた。隣接する00-1・99-3・98-3区^⑤では地山直上において近代頃の煉瓦造りに伴う粘土探掘坑が確認されている。トレンチは1箇所設定した。



第26図 岡田遺跡02-2区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

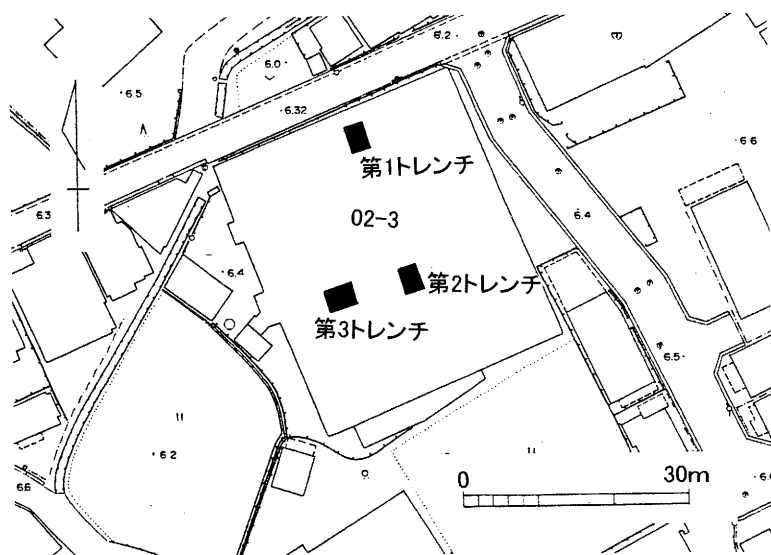
(P.L.4・11)

宅地造成に伴う盛土(1層・約30cm)を除去すると、青灰色シルト(2層・0~20cm)と続き黄褐色粘土(3層・100cm~)の地山にいたる。2層上面で精査を行ったが、遺構は確認されず、いずれの層位からも遺物は出土していない。

第4節 02-3区の調査

1. 位置(第22・27図)

調査区は、遺跡の北端で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現岡田集落の西部にあたり、周囲には住宅地が密集している。周辺では、隣接する97-2区や東側約50mの97-1区で、地山直上で15世紀代の溝が確認されている^⑥。本調査区でも同様に遺構のひろがり期待された。トレンチは3箇所設定した。



第27図 岡田遺跡02-3区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L.4・11・12)

いずれのトレンチとも土層は同じであった。既存建物に伴う基礎(1層・約20cm)を除去すると、黒褐色シルト(2層・約5cm)、マンガン混じり灰色シルト(3層・約20cm)、茶褐色シルト(4層・約5~20cm)、灰褐色シルト(5層・約30cm)と続き、黄褐色粘土(6層)の地山にいたる。

2層から地山である6層までの層位はいずれも耕作土で、第3トレンチでは5層上面で凹凸がみられるが、耕作痕と考えられる。また、6層上面で遺構検出した際に、微かな凹凸が各トレンチともみられ

た。このことから、各トレンチとも6層に及ぶ人為的な影響があった可能性が想定できる。つまり、周辺調査区でみられる近代以降の粘土採掘が本調査区内でも行われていたと考えられるのである。近世の粘土採掘による地山面への影響があるとすれば、5層で検出した遺物は二次的な客土などに伴うもので、これらの遺物の年代が5層の年代を示すものではない。おそらく本調査区では、6層上面まで人為的な影響を受けており、5層までに検出した遺構及び遺物は近代以降のものと考えられる。遺物は各トレンチとも5層で中世の土師質土器片を検出したが、上記のような土層の状況や、周辺の既往の調査において地山（6層）直上で中世の遺構が確認されていることから、本調査区の5層は中世の包含層として認識しづらい。精査は6層上面で行い、第2トレンチでピットを検出した。

3. 遺構（P L.4・12）

第2トレンチでピットを一基検出した。径約20cm、深さ約10cm。柱痕はなく、埋土は灰褐色シルトである。遺物は出土していない。

第5節 01-4区の調査

1. 位置（第22・25図）

調査区は、遺跡の北西部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現岡田集落の南西側にあたり、耕作地として利用されている。調査区と隣接する市道新設に伴う調査（95-2区^①）や、南東約10mの01-2区では中世以降の耕作痕や流路と考えられる遺構の一部が確認されている。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況（P L.4・12）

表土（1層・約140cm）を除去すると、褐灰色シルト（2層・約10cm）と続き、黄褐色粘土（3層）の地山にいたる。1層は宅地の造成に伴う盛土、2層はそれ以前の耕作土である。このうち、図示していないが2層より中世の土師質真蛸壺が出土している。

3. 遺構（P L.4・12）

2・5層上面で精査を行い、5層上面で不明土坑を検出した。SX01は、トレンチ北東隅で一部のみの検出である。半径約60cmの平面扇形で、深さ約30cm、埋土は暗褐色シルト（4層）と黄褐色粘土ブロック混じり灰褐色シルト（5層）である。遺物は出土していない。

SX01は、隣接する95-2区でみられるような流路などが考えられるが、今回の調査成果からではいざれとも判断しかねる。ただ、検出面が同じで、周辺の調査では中世の耕作関連の遺構以外は検出されていないことを勘案すると、95-2区などで確認されている中世以降の流路の一部である可能性が高い。

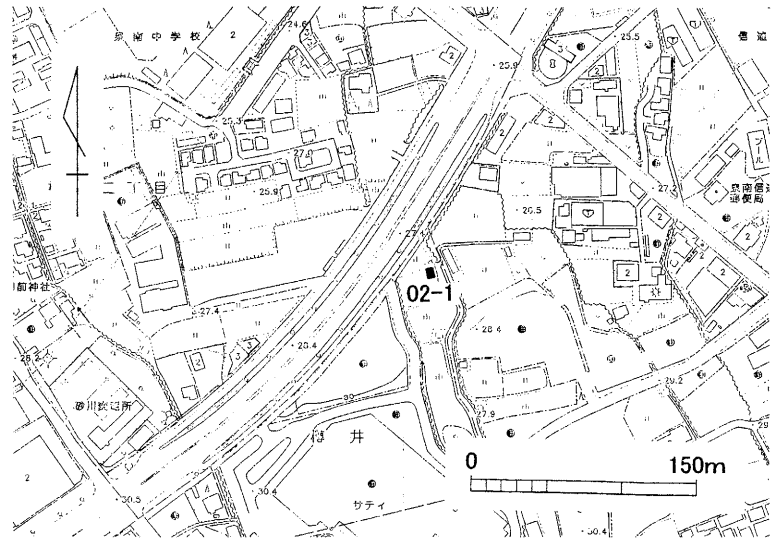
註 ① 泉南市史編纂委員会「第3章 交通と産業」『泉南市史 通史編』（1987）

② 泉南市教育委員会「岡田遺跡90-3区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書IX』（1992）

③ 泉南市教育委員会「岡田遺跡90-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書IX』（1992）

④ 泉南市教育委員会「岡田遺跡97-1・2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』（1997）

- ⑤ 泉南市教育委員会「調査の経過」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』（1997）
- ⑥ 泉南市教育委員会「岡田遺跡01-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIX』（2002）
- ⑦ ⑤と同じ。
- ⑧ 泉南市教育委員会「岡田遺跡00-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIX』（2002）
- ⑨ 泉南市教育委員会「岡田遺跡99-3・98-3区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XVII』（2000）
- ⑩ ④と同じ。
- ⑪ ⑤と同じ。
- ⑫ ⑥と同じ。



第28図 上代石塚遺跡調査区位置図

第9章 中小路北遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L.1・2）

遺跡は現中小路集落の南部に位置し、地形分類では洪積段丘低位面にあたる。遺跡の北東部は中小路集落が含まれ、南西側は耕作地として利用されている。泉南市教育委員会による分布調査で確認された遺跡で、中世の散布地として周知されている。今回の調査は、周知されて以後2度目となる。

隣接する新伝寺遺跡では室町時代の区画施設を伴う掘立柱建物^①、北野遺跡では平安時代後期の桁行ないし梁行が7間の規模をもつ掘立柱建物^②が確認されている。また遺跡内には「大門」「□□寺」などの小字^③も残ることから、中世を中心とした遺構の存在が想定できる。

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第29・30図）

調査区は、遺跡の東部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現中小路集落の南端にあたり、



第29図 中小路北遺跡、中小路西・坊主池遺跡調査区位置図

付近は住宅が密集している。周辺では、南西約50mの00-1区^④で調査が行われているものの包含層及び遺物ともに確認されていない。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

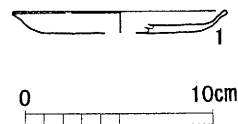
(P L.4・13)

表土(1層・約40cm)を除去すると、褐灰色シルト(2層・約10cm)、黒褐色シルト(5層・約20cm)と続き、黄橙色シルト(6層)の地山にいたる。このうち、5層上面で不定

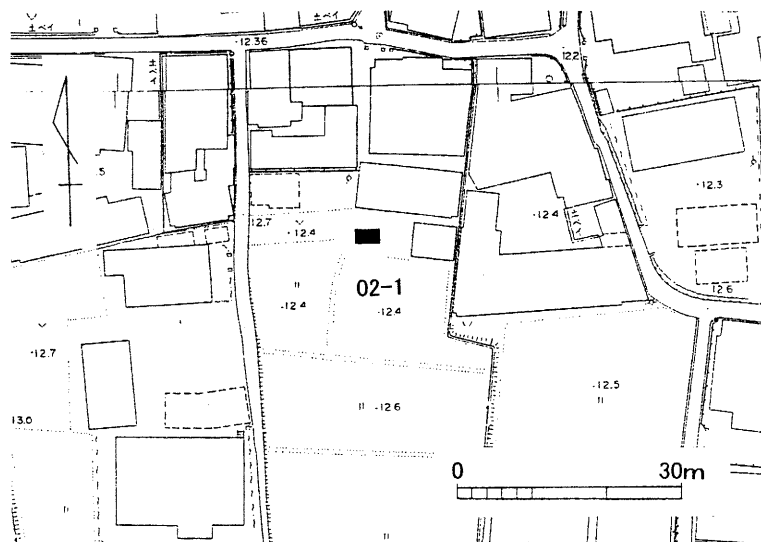
形の落ち込みを検出したが、埋土である3・4層が2層及び5層と同一の土層であり、平面プランが不定形で八つ手状であったことから、樹木の根による痕跡と考えられる。遺物は2層から土師質皿が出土したが、遺構は確認されなかった。

3. 遺物(第31図、P L.15)

1は土師質皿である。口縁部内外面にヨコナデを施す。口縁外面に一部煤が付着している。



第31図 中小路北遺跡02-1区出土遺物



第30図 中小路北遺跡02-1区地形図

註 ① 泉南市教育委員会「新伝寺遺跡」『泉南市文化財年報No.1』(1995)
 ② 泉南市教育委員会「北野遺跡」『泉南市文化財年報No.1』(1995)
 ③ 00-1区の調査時に近隣の方からご教示いただいた。
 ④ 泉南市教育委員会「中小路北遺跡00-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIX』(2002)

第10章 中小路西・坊主池遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L.1・2）

両遺跡は、市域の北東部の現中小路集落付近に分布する。地形分類では、坊主池遺跡の南西側が段丘面上の浅谷であるほかは、洪積段丘低位面にあたる。以下、各遺跡ごとに過去の調査成果を概観する。

中小路西遺跡では、数例の調査が行われている。遺構が確認されたのはいずれも中世以降の灌漑水路もしくは耕作痕である。93-1区では、14世紀代に埋没した灌漑水路が検出されている^①。93-2区では、ほぼ同時期の灌漑水路に加え耕作痕も検出されている^②。

坊主池遺跡は中世の散布地である^③。これまでに調査が行われたのは99-1区のみで、遺構及び遺物ともに確認されていない。

第2節 NKW・BZ02-1区の調査

1. 位置（第29・32図）

調査区は、中小路西遺跡の南西端及び坊主池遺跡の北東端に位置する。地形分類では洪積段丘低位面に位置し、現鳴滝集落の東側約200mの地点にあたる。本調査区の北約50mに位置する中小路西遺跡93-1・2区において、中世の遺構が確認^④されている。なお、いずれの調査区においても現況地盤から約50cm以内に遺構面が確認されている。

トレンチは3箇所設定した。

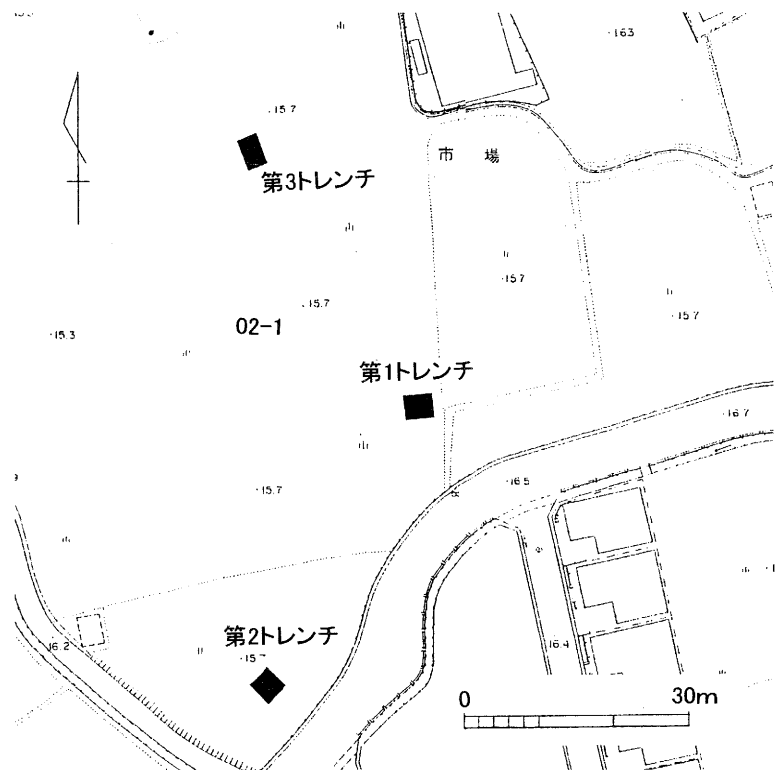
2. 層位と遺物の出土状況（P L.4）

各トレンチとも基本的には同様の層位がみられる。

第1トレンチは、盛土（1層・約120cm）を除去すると、黒褐色シルト（2層・約20cm）と続き黄褐色粘土（4層）の地山にいたる。

第2トレンチは、盛土（1層・約90cm）を除去すると、黒褐色シルト（2層・約20cm）、灰褐色シルト（3層・約10cm）と続き黄褐色粘土（4層）の地山にいたる。

第3トレンチは、盛土（1層・約160cm）を除去すると、黒褐色シルト（2層・約20cm）と続き黄褐色粘土（4層）の地山にいたる。



第32図 中小路西・坊主池遺跡02-1区地形図

いずれのトレンチからも遺物は出土せず、各トレンチとも4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

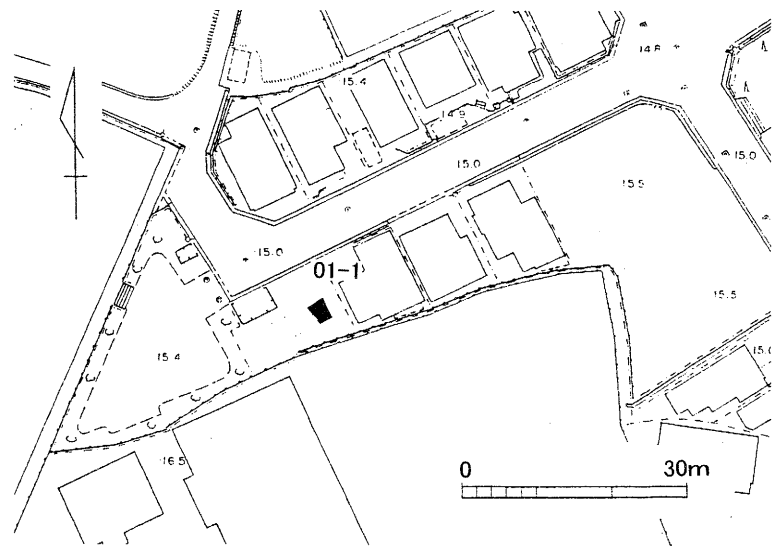
1層は工場解体に伴うコンクリートガラがみられることから、現代の盛土で、2・3層は工場建築以前の現代の耕作土と考えられる。なお、耕作土が20～30cm程度しかみられず、93-2区でみられた中世の包含層^⑥は確認できなかった。

なお、第2トレンチのみ、他のトレンチより地山レベルが50cm程高いが、この部分は申請地内にみられる細かい区画のうち一番南西よりの耕作地にあたることから、申請地内の微細な比高差に起因するものと考えられる。調査区内における地山面の比高差と、いずれのトレンチにおいても包含層が確認されなかったことから、本調査区において耕地化に伴い地山面まで削平されている可能性が指摘できる。

第3節 NKW01-1区の調査

1. 位置 (第29・33図)

調査区は、中小路西遺跡の西部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現中小路集落の東側約100mにあたり、以前は耕作地として利用されていたが、近年宅地化が進む地域である。周辺の調査では、北西約100mの93-1区で、14世紀代の灌漑水路と考えられる溝が検出されている^⑦。トレンチは1箇所設定した。



第33図 中小路西遺跡 01-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況 (P.L.4・13)

盛土(1層・約120cm)を除去すると、黄褐色粘土(2層)の地山にいたる。1層は宅地造成による盛土で、宅地化以前の耕作土は一切遺存していなかった。93-1区で地味土直下約10cmで遺構面がみられることから、周辺の遺構面は現況面から浅い深度に存在する可能性が高い。

遺跡内は93-1区のように遺構面がきわめて浅いと考えられること、本調査区において耕作土が一切遺存していなかったことと断面をみると2層上面は凹凸がみられることから、今回の調査区では遺構面となる地山(2層)を大幅に削平している可能性が高い。

註 ① 泉南市教育委員会「中小路西遺跡93-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X I』(1994)
② 泉南市教育委員会「中小路西遺跡93-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X II』(1995)
③ 大阪府教育委員会『大阪府文化財地名表』(2001)
④ 泉南市教育委員会「調査の経過」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X VIII』(2001)
⑤ ①と同じ。
⑥ ②と同じ。
⑦ ①と同じ。

第11章 大苗代遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L.1・2）

遺跡は市域の東部、熊野街道に面する現大苗代集落の西側に位置する。地形分類では洪積段丘低位面にあたり、付近は近年宅地化がすすむ。平成3年度に共同住宅建設に伴い発見された遺跡である。

遺跡周知の契機となった共同住宅建設に伴う調査^①では、古墳時代の土坑や平安時代末から鎌倉時代にかけての溝、ピットが確認されているほか、弥生時代末・古墳時代後期の遺物が出土している。遺構のうち溝は灌漑水路、ピットは掘立柱建物を構成する柱穴である可能性が想定できる。

遺跡南東側を熊野街道^②が通り、北側に位置する北野遺跡では平安時代後期の掘立柱建物が確認されている。周囲の状況から、中世を中心とした遺構の存在が想定できる遺跡と言えよう。

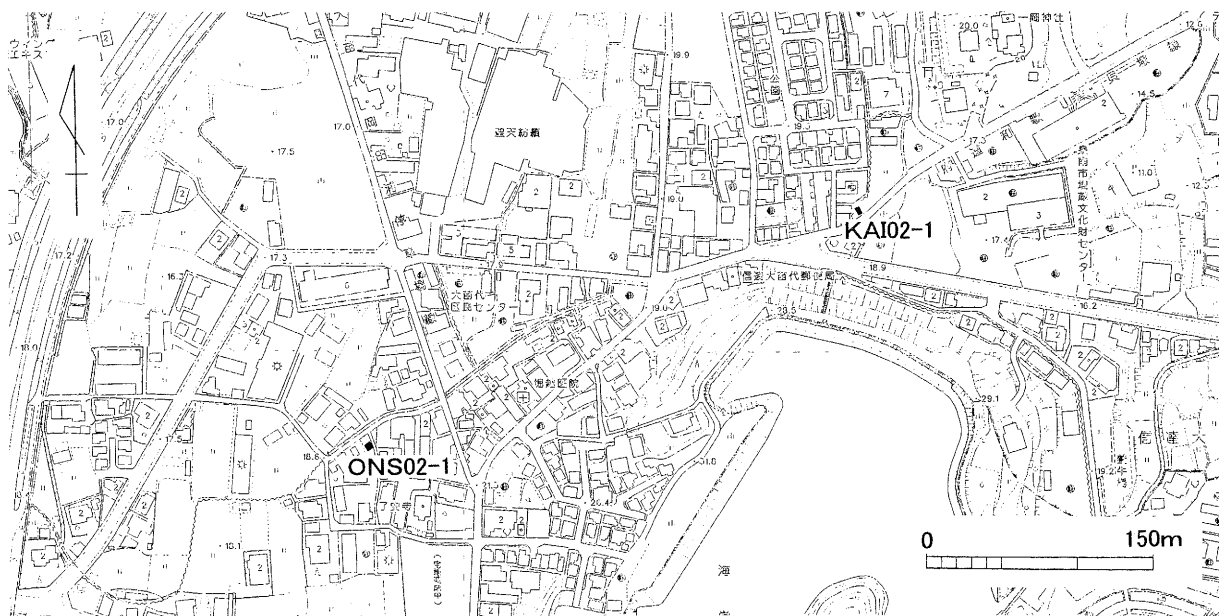
第2節 02-1区の調査

1. 位置（第34・35図）

調査地は大苗代遺跡の南縁部に位置している。地形分類上では洪積段丘低位面に立地している。当遺跡ではこれまで数度の調査がおこなわれているが、遺跡南部における調査は無く、今回の調査によって遺構・遺物の確認、遺物包含層のひろがり把握することが期待された。トレンチは1箇所設定した。

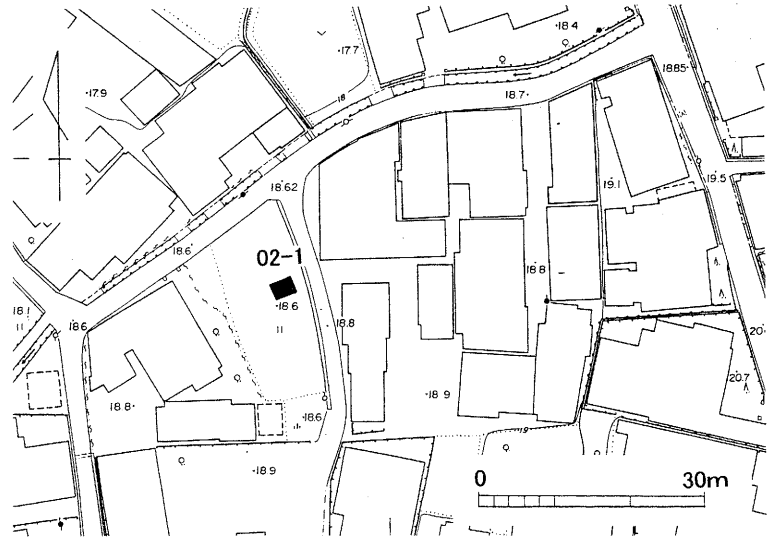
2. 層位と遺物の出土状況（P L.4・13）

確認された層序はすべて水平に堆積している。耕作土（第1層・約20cm）を除去すると、床土層である褐色混じり暗灰色土（第2層・約10cm）と灰色混じり明黄色土（第3層・約15cm）が認められる。以下は、旧耕作土の褐色混じり灰色土（第4層・約30cm）、その床土である褐色混じり暗黄褐色土（第5層・



第34図 大苗代遺跡・海会寺跡調査区位置図

約10cm)、褐色砂質土（第6層・約30cm）と続き、地山である灰色混じり明黄褐色粘質土（第7層）にいたる。当層上面において精査をおこなったが、遺構は確認できなかった。遺物は第3層から近世の瓦、第4層から須恵器の小片が出土している。



第 35 図 大苗代遺跡 02-1 区地形図

- 註 ① 泉南市教育委員会『共同住宅建設に伴う大苗代遺跡発掘調査報告書』（2002）
 ② 大阪府教育委員会『熊野・紀州街道 論考編 一歴史の道調査報告書第1集一』（1987）
 ③ 泉南市教育委員会「北野遺跡」『泉南市文化財年報No.1』（1995）
 泉南市教育委員会「北野遺跡99-3区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIX』（2002）

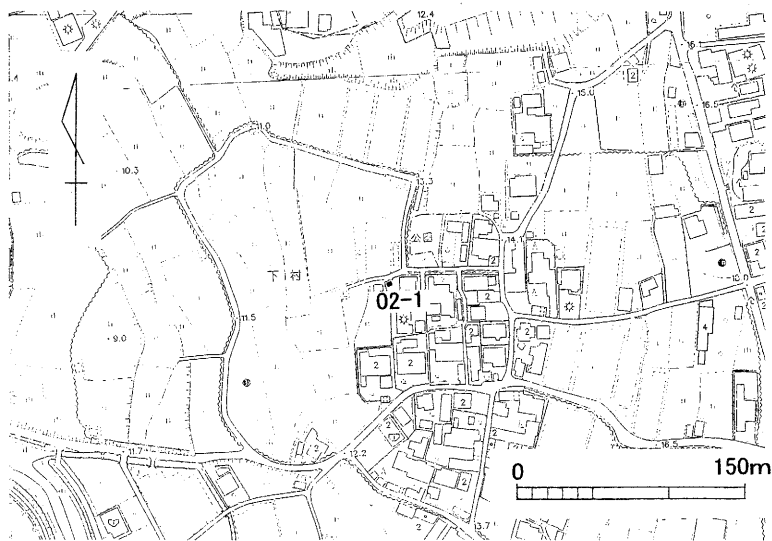
第12章 下村遺跡の調査

第1節 既往の調査（P.L.1・2）

遺跡は、新家川右岸に位置する。遺跡東半が現下村集落にあたり、西部は耕作地として利用されている。地形分類では洪積段丘低位面及び沖積段丘にあたる。

これまでの調査で遺構が確認されたのは、現下村集落内に限られる。中世の柱穴や近世のカマド^①、弥生時代中期の土坑や中世の掘立柱建物^②などである。

遺跡の位置する新家川左岸には、弥生時代中期の方形周溝墓が確認されている向山遺跡^③や弥生時代中期の遺構が確認された新家遺跡^④、同川右岸の丘陵には弥生時代の高地性集落が確認された新家オドリ山遺跡^⑤や、数基の小規模な円墳で構成されるフキアゲ山古墳群及び新家古墳群^⑥などが点在する。また、新家川流域は『日輪山清明寺代々并三谷古記』をもとに中世以降の耕地開発の状況を知ることができる^⑦。

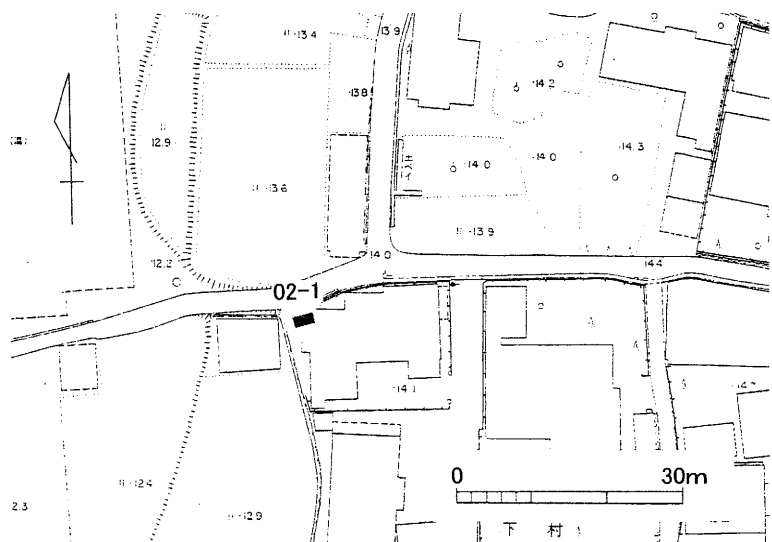


第36図 下村遺跡調査区位置図

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第36・37図）

調査区は、遺跡の中央部で、地形分類では洪積段丘低位面に位置する。現下村集落の北端にあたり、本調査区の北約10mには弥生時代中期の遺構面が確認された95-1区^⑧が隣接している。トレンチは1箇所設定した。



第37図 下村遺跡02-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L.4・14)

盛土（1層・約100cm）を除去すると、青灰色粗砂（2層・約10cm）、青灰色シルト（3層・約20cm）と続き、青灰色粘土混じり礫（4層）にいたる。1・2層は現代、3層は還元色を呈するものの宅地化される以前の旧耕作土と考えられる。

このうち、3層で弥生土器の小片が出土した。遺物はいずれも4層との境界で確認されており、小片

が数点出土した程度である。調査区が狭小なため断言はできないが、95-1区でも地山面で中世の遺構が確認されており、直上の包含層も中世のものであることから、本調査区の3層が弥生時代の包含層と断定はできない。3・4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

- 註 ① 泉南市教育委員会「下村遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X』(1993)
② 泉南市教育委員会「下村遺跡95-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅢ』(1996)
③ 泉南市教育委員会『泉南市向山遺跡発掘調査報告書』(1971)
④ 泉南市教育委員会「新家遺跡」『泉南市文化財年報No.1』(1995)
⑤ 堀田啓一「第1章 原始の泉南」『泉南市史通史編』(1987)
⑥ ⑤と同じ。
⑦ ⑤と同じ。
⑧ ②と同じ。

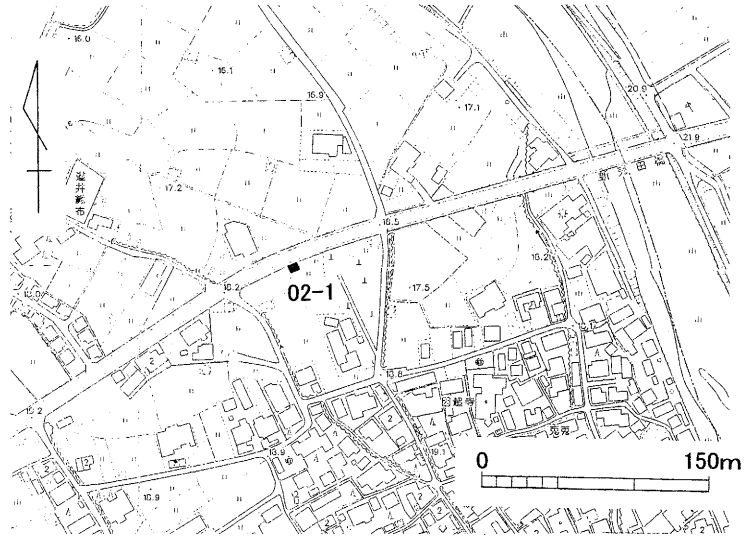
第13章 兎田遺跡の調査

第1節 既往の調査（P.L.1・2）

遺跡は市域の東端、檜井川左岸の檜井丘陵東裾に位置する。現在の兎田集落にほぼ重なるようにひろがり、地形分類では自然堤防もしくは氾濫原にあたる。試掘調査によって発見された遺跡^①で、中世以降の遺構及び遺物が確認されている。

遺跡東部、89-1・94-1区^②では、遺構及び遺物は確認されていない。檜井川の氾濫など、地形的に不安定なためであろうか。

遺跡中央、現兎田集落内における調査では、中世以降の遺構や遺物が確認されている。95-1区^③では時期は不明であるもののピット、95-2区^④では中世の包含層、98-1区^⑤で近世以降の廃棄土坑及び整地土、96-1区^⑥で近世の雨落ち溝やピットが確認されている。遺構はいずれも現代耕作土層直下で確認されており、そのベース層が中世の包含層といってよい。地山はいずれも礫層で、地山直上において遺構は確認されていない。

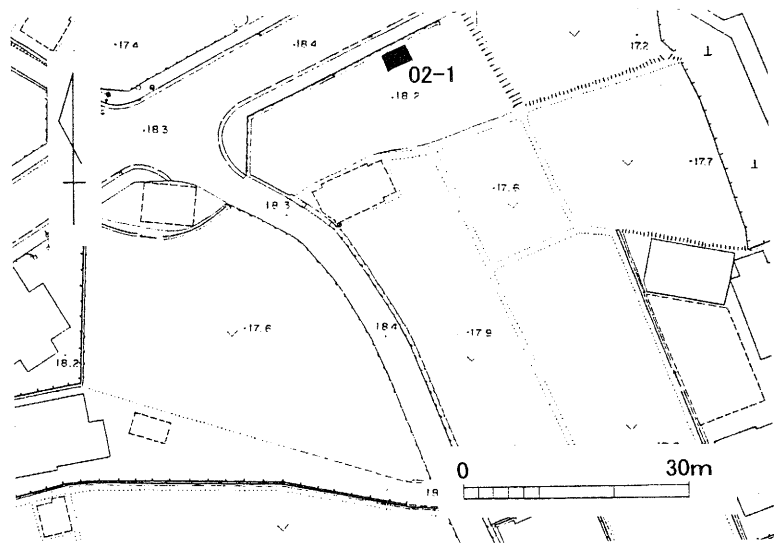


第38図 兎田遺跡調査区位置図

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第38・39図）

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では自然堤防にあたる。現兎田集落の北側約50mに位置し、周囲には耕作地がひろがる。周辺では、96-1区^⑦において近世以降の雨落ち溝やピットが確認されているものの、現兎田集落内における調査のため、本調査地とは状況が異なることが想定される。現況は更地で、トレンチは1箇所設定した。



第39図 兎田遺跡02-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況 (P L.4・14)

盛土 (1層・約40cm) を除去すると、黒褐色シルト (2層・約10cm)、黄橙色シルト (3層・約10cm)、褐灰色シルト (4層・約40cm)、礫混じり灰褐色シルト (5層・約20cm) と続き、礫混じり灰色粗砂 (6層) にいたる。1・2層は現代耕作土でその他は自然堆積、6層以下が地山と考えられる。このうち、5層で土師器が出土したが小片のため時期は不明である。また、4・5・6層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

- 註 ① 泉南市教育委員会「兎田遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅶ』(1990)
② 泉南市教育委員会「兎田遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅶ』(1990)
泉南市教育委員会「兎田遺跡94-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅩⅡ』(1995)
③ 泉南市教育委員会「兎田遺跡95-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅩⅢ』(1996)
④ ③と同じ。
⑤ 泉南市教育委員会「兎田遺跡98-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅩⅦ』(2000)
⑥ 泉南市教育委員会「兎田遺跡96-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅩⅤ』(1998)
⑦ ⑥と同じ。

第14章 まとめ

本書で報告したのは、市内遺跡における文化財保護法にもとづく発掘調査のうち、個人住宅建設などに伴うものである。平成14年1月1日から同年12月31日までに行われた平成13年度分3件と平成14年度分21件を報告している。以下にその概要を記し、まとめとしたい。

男里遺跡02-1区では方形堀方が検出された90-7区と同一の遺構面を検出した。明確な年代は不明であるが、付近に集落域の存在が想定できる。02-2区では、府道新設に伴う調査で確認した2面の遺構面と同一と考えられる層位を確認し、南東側へレベルを下げる自然地形であることが判明した。02-3区では遺構面は認識できなかったものの、7世紀後半の遺物を確認した。02-4区では、流路埋土を確認し最上層から瓦器が出土した。付近の地形は中世以前は不安定なものであったことが想定できる。02-5区では99-8・00-9区で確認された明確な遺構面及び地山は認識できず、周囲には埋積谷などの微地形の存在が想定できる。02-6区で確認した層位は双子池堤体改修の調査で確認されている流路と考えられ、旧河道の規模を想定できうる資料と言える。02-7区では、2面の遺構面を確認した。上層では耕作痕、下層ではピットを検出し、西側約50mの府道新設に伴う調査で確認されている遺構面に対応するものと考えられる。01-7区では、土坑を検出し8世紀前半の遺構面の存在を確認した。同時期の流路が確認されている双子池堤体改修に伴う調査区までの一帯に当該時期の集落の存在が想定できる。

戒畑遺跡02-1区では、土坑を検出した。区画整理に伴う95-1区で確認した遺構と一連のものである。

天神ノ森遺跡02-1区では1.4mもの盛土を確認した。

幡代遺跡02-2区では、隣接する市道拡幅に伴う調査区と同一の遺構面と考えられる層位を確認した。遺構・遺物ともに検出されなかったが、付近に遺構のひろがりやを想定できる層位である。

岡中遺跡02-1区は岡中集落北端におけるはじめての調査であった。02-2区では地山直上で陶磁器が出土している。耕地化に伴い原地形を大幅に改変している可能性が高い。

氏の松遺跡02-1区では明確な地山を確認したものの、遺構は検出されなかった。南東約100mの市道新設に伴う調査で確認された弥生時代前期の集落規模を想定する資料が得られたと言える。

岡田遺跡02-1区では、遺構・遺物ともに検出されなかったものの、隣接する95-2区と同一の遺構面を確認した。02-2区では、表土(盛土)直下が地山であることを確認した。02-3区では第2トレンチでピットを確認した。97-2区で確認している遺構面と同一のもので、遺構のひろがりやを把握したと言える。01-4区では、土坑を検出した。95-2区と同一の遺構面であり、関連性が想定できる。

中小路北遺跡02-1区では、包含層とは考えづらいが中世の遺物が出土した。

中小路西・坊主池遺跡02-1区及び中小路西遺跡01-1区では、地形改変が激しいことを確認した。おそらく地山面をも削平していると考えられる。

大苗代遺跡は、周辺の歴史的環境から遺構の存在する可能性は高い。02-1区では須恵器が出土しているものの、遺構は確認されていない。

下村遺跡02-1区では、弥生土器と考えられる遺物が出土した。ただ、今回は95-1区で確認されている遺構面及び包含層を明確に認識することはできなかった。

兎田遺跡02-1区では遺跡北部におけるはじめての調査であった。遺構は確認されなかったが、地山直上で土師器が1点出土した。今後の調査の指標となる層位を把握できたと言える。

第5表 文化財一覧表

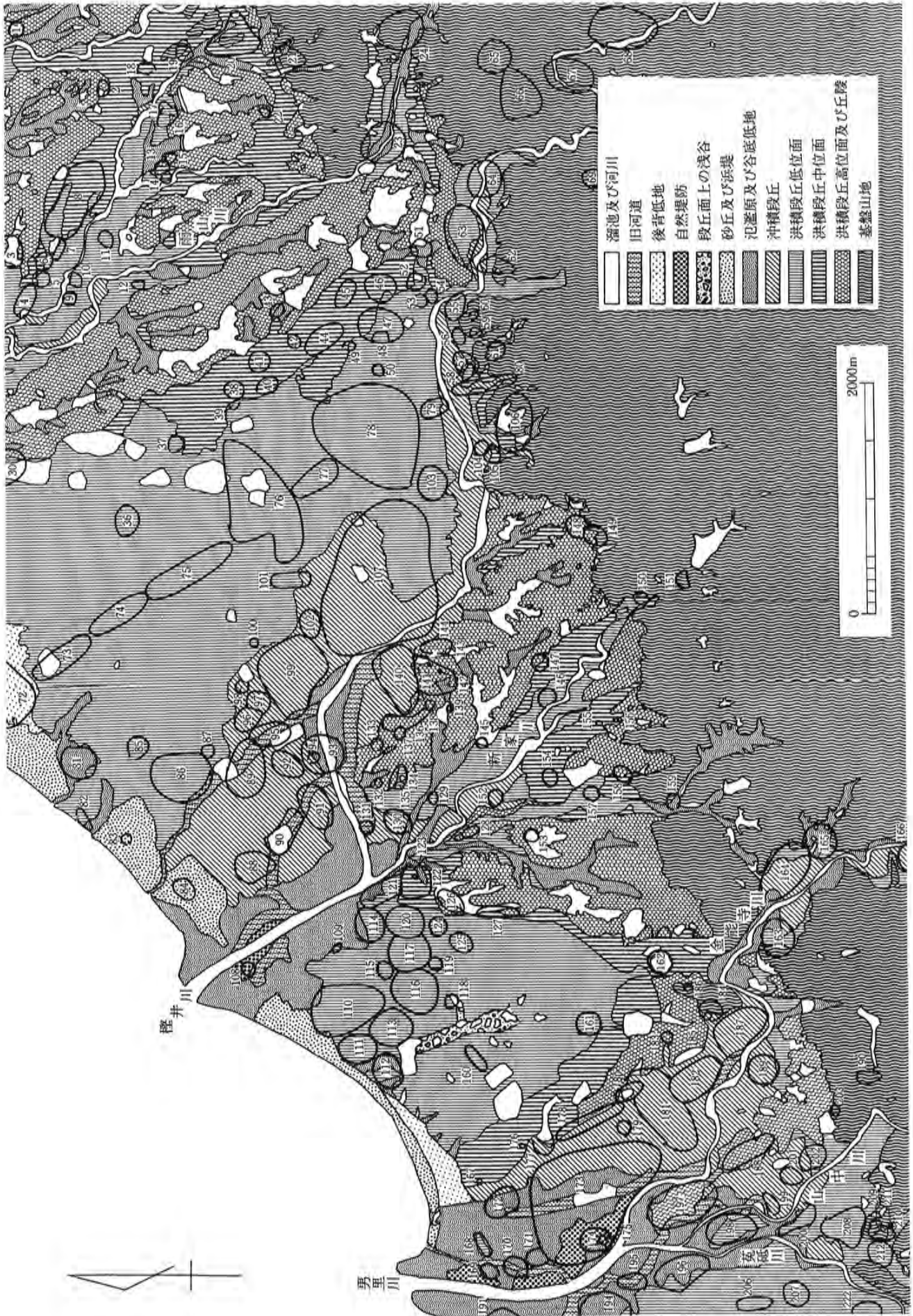
1	正法寺跡	47	野々宮遺跡	93	樫井城跡	139	引谷池窯跡	185	林昌寺瓦窯跡
2	小垣内遺跡	48	総福寺天満宮本殿	94	奥家住宅	140	兔田遺跡	186	林昌寺銅鐸出土地
3	大谷池遺跡	49	宮ノ前遺跡	95	道ノ池遺跡	141	フキアゲ山東遺跡	187	岡中遺跡
4	大久保B遺跡	50	垣外遺跡	96	岡ノ崎遺跡	142	フキアゲ山1号墳	188	高田山古墳群
5	下高田遺跡	51	屯田遺跡	97	中菖蒲遺跡	143	フキアゲ山2号墳	189	岡中西遺跡
6	紺屋遺跡	52	八王子遺跡	98	岸ノ下遺跡	144	兔田古墳群	190	雨山南遺跡
7	口無池遺跡	53	慈眼院金堂・多宝塔	99	諸目遺跡	145	池尻遺跡	191	福島遺跡
8	東円寺跡	54	日根神社遺跡	100	城ノ塚古墳	146	中の川遺跡	192	尾崎海岸遺跡
9	降井家屋敷跡	55	西ノ上遺跡	101	禪興寺跡	147	岩の前遺跡	193	馬川北遺跡
10	大久保C遺跡	56	川原遺跡	102	ダイジョウ寺跡	148	別所北遺跡	194	馬川遺跡
11	中家住宅	57	母山遺跡	103	上之郷遺跡	149	別所遺跡	195	下出北遺跡
12	大久保A遺跡	58	母山近世墓地	104	向井代遺跡	150	高野遺跡	196	室堂遺跡
13	五門北古墳	59	向井山遺跡	105	意賀美神社本殿	151	昭和池遺跡	197	平野寺(長楽寺)跡
14	五門遺跡	60	鏡塚古墳	106	向井池遺跡	152	上村遺跡	198	向出遺跡
15	五門古墳	61	梨谷遺跡	107	三軒屋遺跡	153	狐池遺跡	199	高田西遺跡
16	大浦中世墓地	62	笹ノ山遺跡	108	川原遺跡	154	上野中道遺跡	200	向山遺跡
17	大浦遺跡	63	土丸遺跡	109	岡田東遺跡	155	宮遺跡	201	高田南遺跡
18	甲田家住宅	64	土丸南遺跡	110	岡田遺跡	156	宮南遺跡	202	和泉鳥取遺跡
19	久保B遺跡	65	雨山城跡	111	氏の松遺跡	157	芋掘遺跡	203	雨山遺跡
20	鳥羽殿城跡	66	土丸城跡	112	座頭池遺跡	158	石ケ原遺跡	204	内畑遺跡
21	墓の谷遺跡	67	下大木遺跡	113	岡田西遺跡	159	高倉山南遺跡	205	皿田池古墳
22	来迎寺本堂	68	大木遺跡	114	新伝寺遺跡	160	本田池遺跡	206	正方寺遺跡
23	池ノ谷遺跡	69	稲倉池北方遺跡	115	中小路北遺跡	161	上代石塚遺跡	207	西畑遺跡
24	成合寺遺跡	70	大西遺跡	116	中小路西遺跡	162	信之池遺跡	208	自然田遺跡
25	山ノ下城跡	71	松原遺跡	117	中小路遺跡	163	滑瀬遺跡	209	玉田山遺跡
26	山出遺跡	72	中開遺跡	118	坊主池遺跡	164	六尾遺跡	210	玉田山古墳群
27	上瓦屋遺跡	73	末廣遺跡	119	中小路南遺跡	165	六尾南遺跡	211	玉田山須恵器窯跡
28	湊遺跡	74	安松遺跡	120	北野遺跡	166	金熊寺遺跡	212	寺田山遺跡
29	壇波羅密寺跡	75	長滝遺跡	121	一岡神社遺跡	167	専徳寺遺跡	213	黒田西遺跡
30	壇波羅遺跡	76	植田池遺跡	122	海会寺跡	168	天神ノ森遺跡	214	鳥取北遺跡
31	佐野王子跡	77	郷ノ芝遺跡	123	海会寺瓦窯	169	キレト遺跡	215	鳥取遺跡
32	上町東遺跡	78	日根野遺跡	124	大苗代遺跡	170	高田遺跡	216	鳥取南遺跡
33	市場東遺跡	79	机場遺跡	125	仏性寺跡	171	男里北遺跡	217	黒田南遺跡
34	若宮遺跡	80	棚原遺跡	126	海宮宮池遺跡	172	戎畑遺跡	218	神光寺(蓮池)遺跡
35	上町遺跡	81	羽倉崎東遺跡	127	市場遺跡	173	男里遺跡	219	三味谷遺跡
36	俵屋遺跡	82	羽倉崎遺跡	128	向井山遺跡	174	光平寺跡	220	三升五合山遺跡
37	北尻遺跡	83	嘉祥神社本殿	129	新家遺跡	175	光平寺石造五輪塔	221	小口谷遺跡
38	岡口遺跡	84	道ノ池遺跡	130	下村遺跡	176	樽井南遺跡	222	井関遺跡
39	中嶋遺跡	85	羽倉崎上町遺跡	131	下村北遺跡	177	男里東遺跡	223	石田山遺跡
40	小塚遺跡	86	船岡山遺跡	132	下村1号墳	178	長山遺跡	224	西鳥取遺跡
41	十二谷遺跡	87	岡本廃寺	133	新家オドリ山東遺跡	179	山ノ宮遺跡	225	戎遺跡
42	丁田遺跡	88	田尻遺跡	134	新家オドリ山遺跡	180	前田池遺跡	226	貝掛遺跡
43	新池尻遺跡	89	船岡山南遺跡	135	下村2号墳	181	幡代遺跡	227	金剛寺遺跡
44	大坪遺跡	90	夫婦池遺跡	136	新家古墳群	182	幡代南遺跡	228	塚谷古墳群
45	市堂遺跡	91	樫井西遺跡	137	新家オドリ山南遺跡	183	奥ノ池遺跡		
46	北ノ前遺跡	92	藤波遺跡	138	フキアゲ山西遺跡	184	林昌寺跡		

版 图

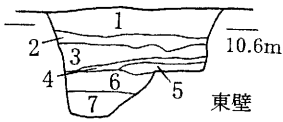
PL.1 泉南地域の文化財



PL.2 泉南地域の地形分類

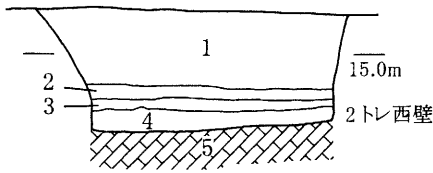


PL.3 男里遺跡・光平寺跡、戎畑遺跡、天神ノ森遺跡調査区



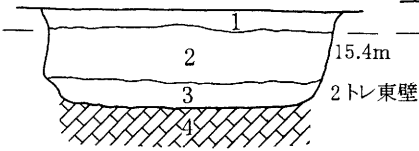
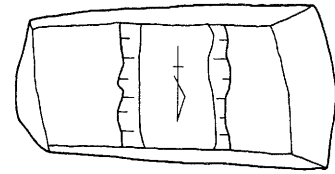
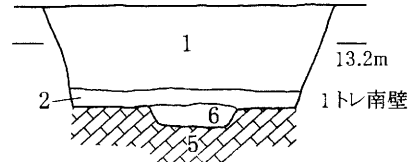
1. 盛土
2. 淡黄色シルト
3. 灰白色シルト
4. 礫混じり黄褐色シルト
5. 黄褐色シルト
6. 褐灰色粗砂混じり礫
7. 灰色粗砂混じり礫

ON02-3 区断面図

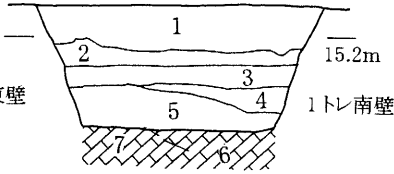


1. 盛土
2. 暗灰色土
3. 褐色混じり淡灰色土
4. 淡黒褐色土
5. 暗黄褐色土
6. 黒褐色粘質土

ON02-1 区平面図及び断面図

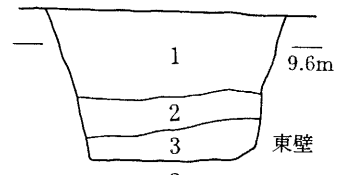


1. 舗装及び盛土
2. 攪乱
3. 礫混じり暗茶褐色シルト
4. 礫混じり黄褐色シルト



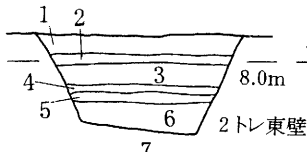
1. 舗装及び盛土
2. 黒褐色シルト
3. 礫混じり茶褐色シルト
4. 礫混じり明茶褐色シルト
5. 礫混じり茶褐色シルト
6. 黄褐色シルト
7. 礫混じり黄褐色シルト

ON02-2 区断面図



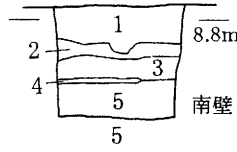
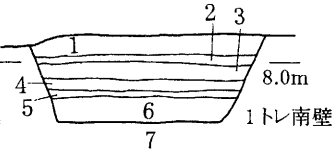
1. 盛土
2. 黒褐色シルト混じり礫
3. 茶褐色礫

ON-KH02-4 区断面図



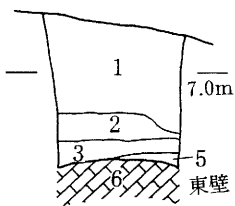
1. 現耕作土
2. 暗褐色混じり黄褐色土
3. 灰色混じり明黄褐色土
4. 明黄褐色土
5. 暗灰色土
6. 黒褐色粘質土
7. 暗褐色砂質土

ON02-6 区断面図



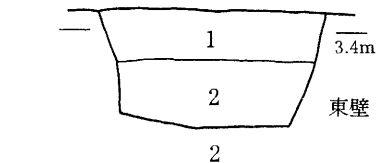
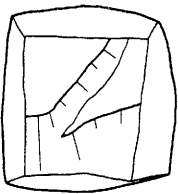
1. 盛土
2. 黒褐色シルト
3. 黄褐色シルト
4. 灰褐色シルト
5. 黒褐色シルト混じり礫

ON02-5 区断面図



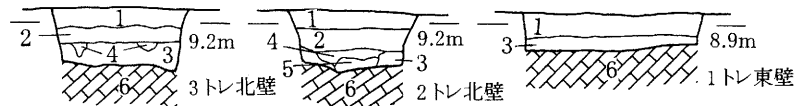
1. 盛土
2. 黒褐色シルト
3. 灰褐色シルト
4. 黒褐色シルト
5. 礫混じり黒褐色シルト
6. 黄褐色シルト

EB02-1 区平面図及び断面図



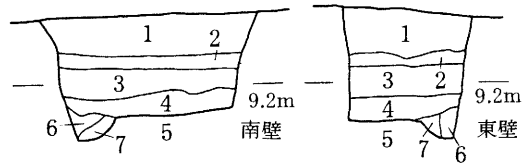
1. 盛土
2. 宅地造成に伴う盛土

TN02-1 区断面図



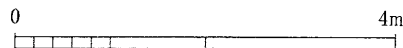
1. 黒褐色シルト
2. 橙灰色シルト
3. 黒褐色シルト
4. 灰褐色シルト
5. 黄褐色シルトブロック混じり黒褐色シルト
6. 黄褐色シルト

ON02-7 区断面図

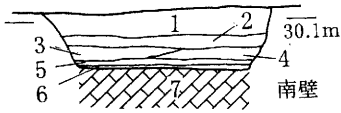


1. 盛土
2. 灰色シルト
3. 褐灰色シルト
4. 黒褐色シルト
5. 黄褐色シルト
6. 黒褐色シルト
7. 黒褐色シルトブロック混じり褐灰色シルト

ON01-7 区断面図

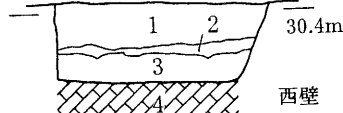


PL. 4 幡代遺跡、岡中遺跡、氏の松遺跡、岡田遺跡、中小路北遺跡、
中小路西・坊主池遺跡、大苗代遺跡、下村遺跡、兎田遺跡調査区



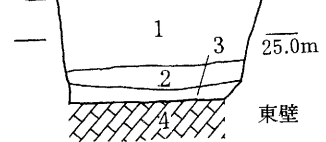
1. 黒褐色シルト
2. 褐灰色シルト
3. 礫混じり茶褐色シルト
4. 礫混じり黄褐色シルト
5. 礫混じり灰褐色シルト
6. 黄褐色シルト
7. 礫混じり暗褐色粗砂

OK02-2 区断面図



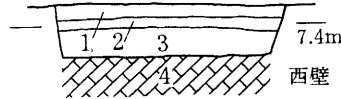
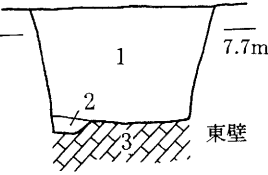
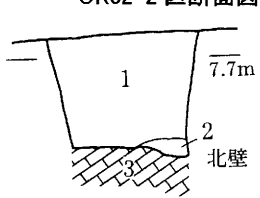
1. 盛土
2. 灰褐色シルト
3. 黒褐色シルト
4. 礫混じり黒褐色シルト

OK02-1 区断面図



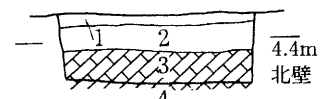
1. 盛土
2. 灰褐色シルト
3. 黒褐色シルト
4. 黄褐色シルト

HT02-2 区断面図



1. 黒褐色シルト
2. 黄色粘土ブロック混じり褐灰色シルト
3. 褐灰色シルト
4. 黄色粘土

OKD02-1 区断面図

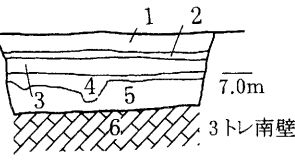
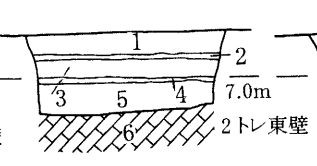
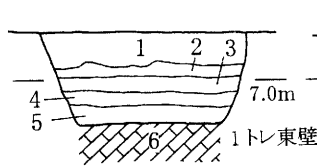


1. 黒褐色シルト
2. 黄褐色シルト
3. 黄褐色シルト混じり礫
4. 灰白色シルト混じり礫

UJ02-1 区断面図

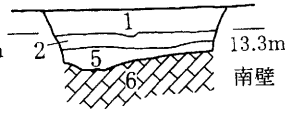
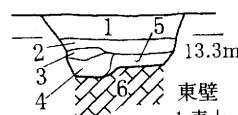
1. 宅地造成に伴う盛土
2. 青灰色シルト(耕作土)
3. 黄褐色粘土

OKD02-2 区断面図



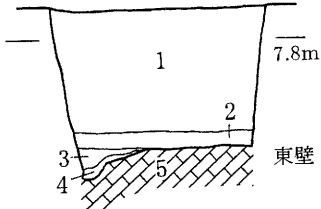
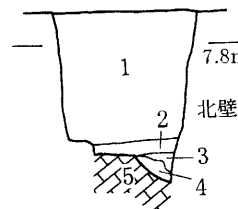
1. 既存建物に伴う基礎
2. 黒褐色シルト
3. マンガン混じり灰色シルト
4. 茶褐色シルト
5. 灰褐色シルト
6. 黄褐色粘土

OKD02-3 区断面図



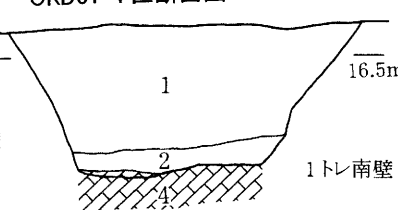
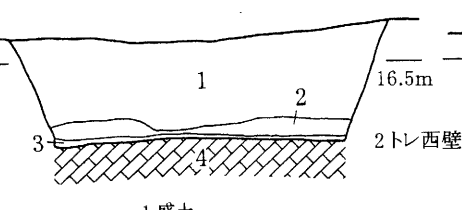
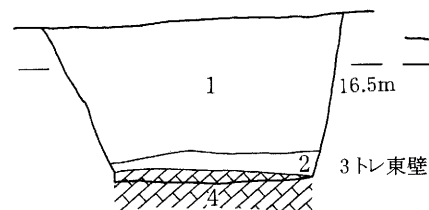
1. 表土
2. 褐灰色シルト
3. 黒褐色シルト
4. 褐灰色シルト
5. 黒褐色シルト
6. 黄褐色シルト

NKN02-1 区断面図



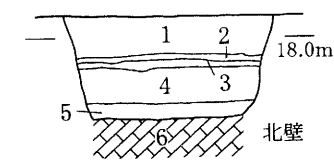
1. 表土
2. 褐灰色シルト
3. 黄褐色粘土
4. 暗褐色シルト
5. 黄褐色粘土ブロック混じり灰褐色シルト

OKD01-4 区断面図



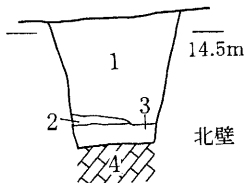
1. 盛土
2. 黒褐色シルト
3. 灰褐色シルト
4. 黄褐色粘土

NKW-BZ02-1 区断面図



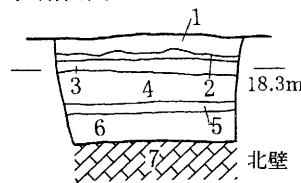
1. 盛土
2. 黒褐色シルト
3. 黄褐色シルト
4. 褐灰色シルト
5. 礫混じり灰褐色シルト
6. 礫混じり灰色粗砂

US02-1 区断面図



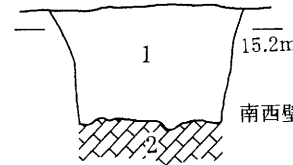
1. 盛土
2. 青灰色粗砂
3. 青灰色シルト
4. 青灰色粘土混じり礫

SM02-1 区断面図



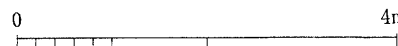
1. 耕作土
2. 褐色混じり暗灰色土
3. 灰色混じり明黄色土
4. 褐色混じり灰色土
5. 褐色混じり暗黄褐色土
6. 褐色砂質土
7. 灰色混じり明黄褐色粘質土

ONS02-1 区断面図



1. 盛土
2. 黄褐色粘土

NKW01-1 区断面図





ON02-1区
第1トレンチ
(北から)



ON02-1区
第2トレンチ
(北から)



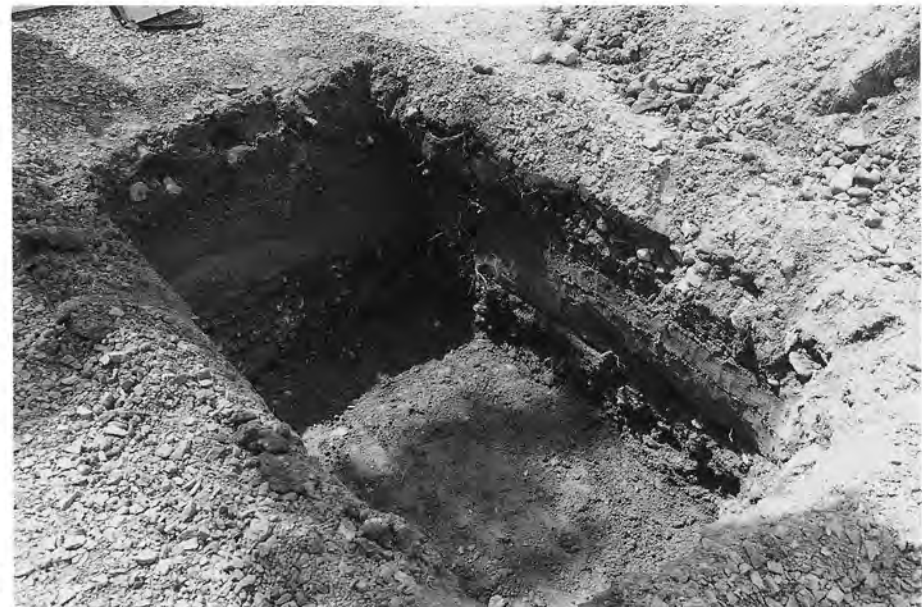
ON02-2区
第2トレンチ
(西から)



ON02-3区
(南から)



ON・KH02-4区
(北から)



ON02-5区
(北から)



ON02-6区
第1トレンチ
(北東から)



ON02-6区
第2トレンチ
(北から)



ON02-7区
第1トレンチ
(北から)



ON02-7区
第2トレンチ2面
(北から)



ON02-7区
第3トレンチ
(北から)



ON01-7区
(北西から)

PL.9 戎畑遺跡 02-1 区、天神ノ森遺跡 02-1 区、幡代遺跡 02-2 区



EB02-1区
(北東から)



TN02-1区
(南から)



HT02-2区
(南東から)



OK02-1区
(南から)



OK02-2区
(南から)



UJ02-1区
(南西から)



OKD02-1区
(南から)



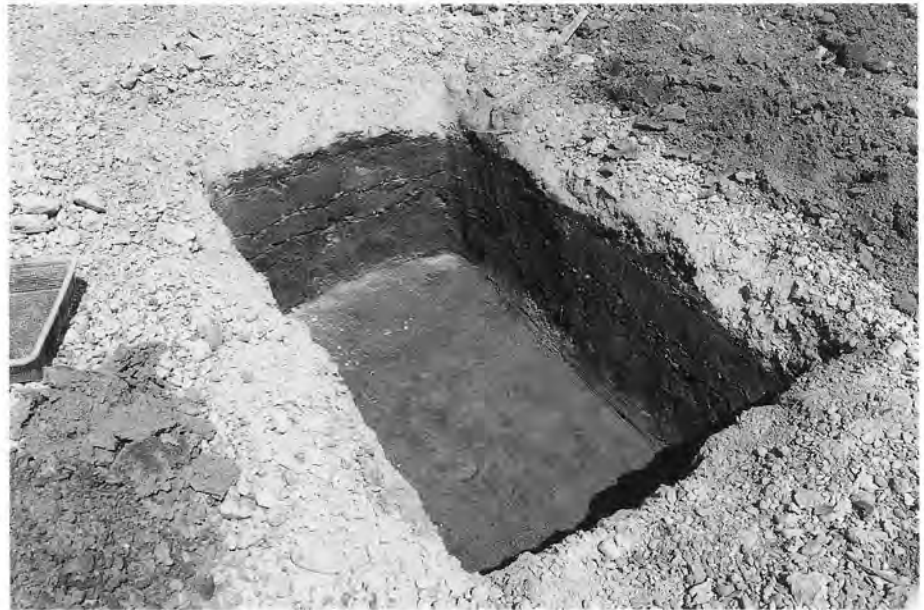
OKD02-2区
(東から)



OKD02-3区
第1トレンチ
(南西から)



OKD02-3区
第2トレンチ
(南西から)



OKD02-3区
第3トレンチ
(西から)



OKD01-4区
(西から)

PL. 13 中小路北遺跡 02-1 区、中小路西遺跡 01-1 区、大苗代遺跡 02-1 区



NKN02-1区
(北西から)



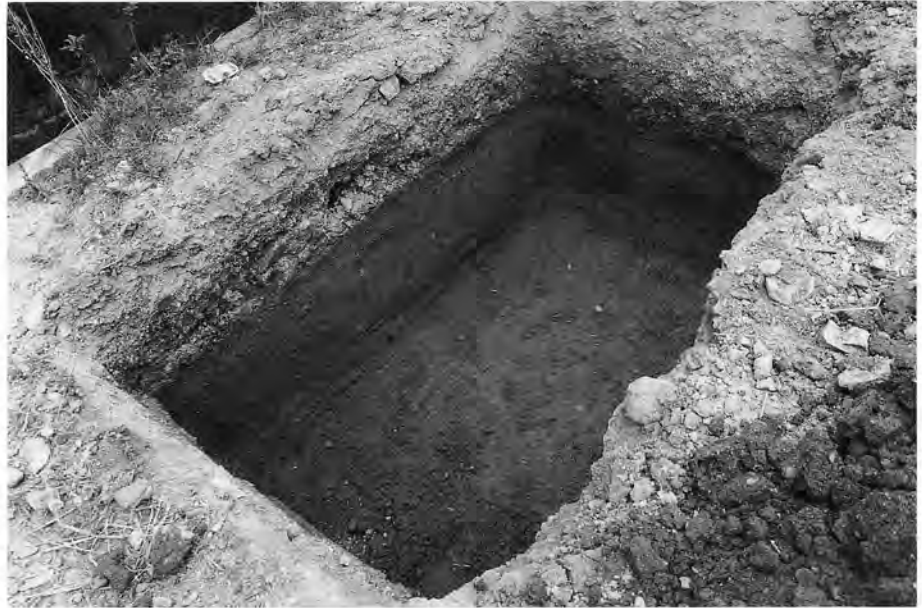
NKW01-1区
(南から)



ONS02-1区
(南西から)

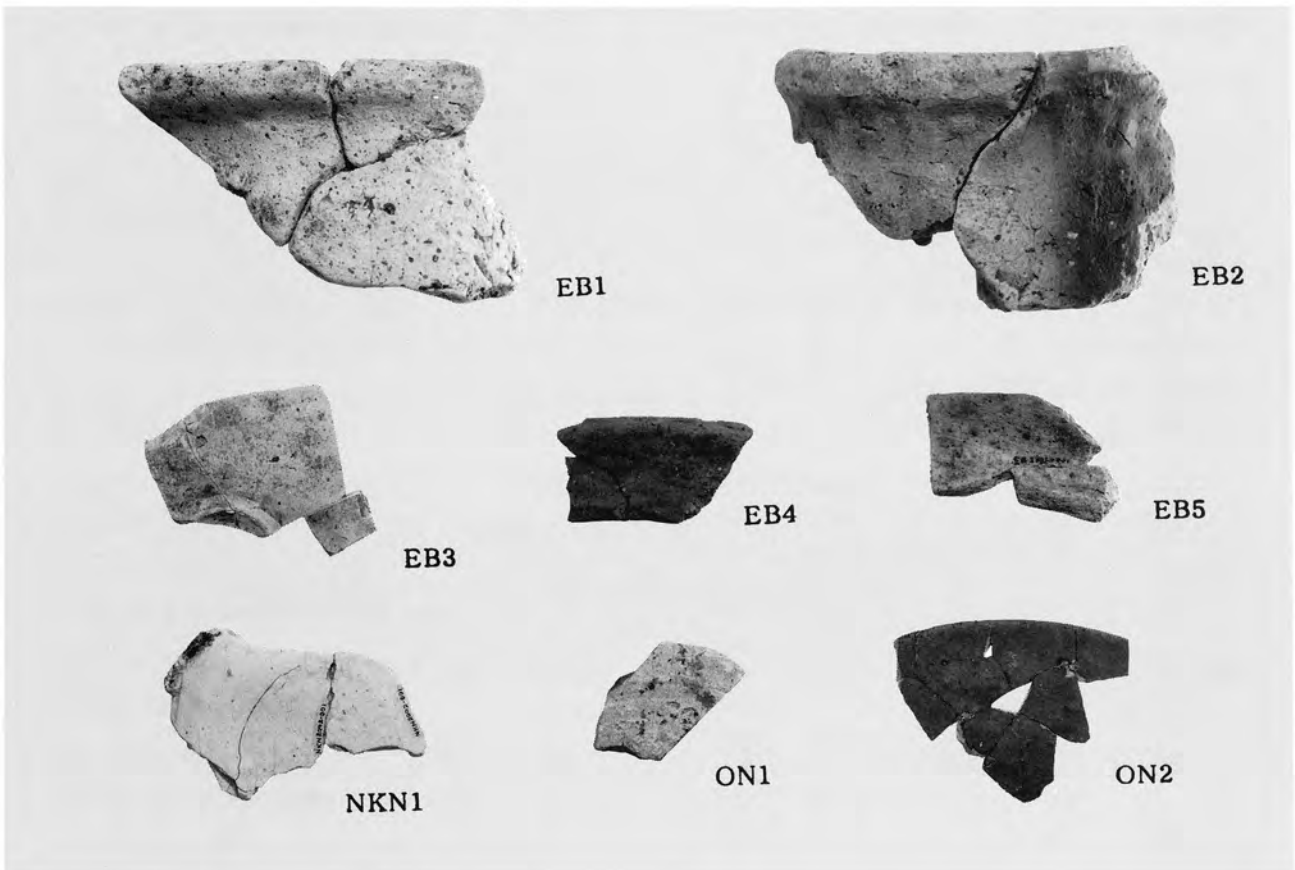


SM02-1区
(南東から)



US02-1区
(南から)

PL. 15 男里遺跡 02-3・01-7 区、男里遺跡・光平寺跡 02-4 区、
戎畑遺跡 02-1 区、中小路北遺跡 02-1 区出土遺物



報告書抄録

ふりがな	せんなんしいせきぐん はつかつちょうさほうこくしょ 20							
書名	泉南市遺跡群発掘調査報告書							
副書名	—							
巻次	XX							
シリーズ名	泉南市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第三十九集							
編著者名	岡 一彦・河田泰之							
編集機関	泉南市教育委員会							
所在地	〒590-0592 大阪府泉南市樽井1丁目1番1号 Tel.0724-83-0001							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
おのさと 男里遺跡	おおさかふせんなんしおのさと 大阪府泉南市男里	27228	ON	34度	135度	ON02-1 200211	3	共同住宅
				21分	15分	ON02-2 200204	4	分譲住宅
				30秒	40秒	ON02-3 200209	3	個人住宅
こうへいじあと 光平寺跡	おおさかふせんなんしおのさと 大阪府泉南市男里	27228	KH	34度	135度	ON・KH02-4 200209	5	個人住宅
				21分	15分	ON02-5 200209	3	個人住宅
				30秒	27秒	ON02-6 200204	8	賃貸住宅
						ON02-7 200207	6	店舗
						ON01-7 200201	4	個人住宅
えびすばた 戎畑遺跡	おおさかふせんなんしたるい 大阪府泉南市樽井	27228	EB	34度 21分 56秒	135度 15分 39秒	02-1 200205	3	個人住宅
てんじんのもり 天神ノ森遺跡	おおさかふせんなんしたるい 大阪府泉南市樽井	27228	TN	34度 22分 02秒	135度 15分 25秒	02-1 200212	5	個人住宅
はたしろ 幡代遺跡	おおさかふせんなんしはたしろ 大阪府泉南市幡代	27228	HT	34度 21分 09秒	135度 16分 08秒	02-2 200212	3	個人住宅
おかなか 岡中遺跡	おおさかふせんなんししんだちおかなか 大阪府泉南市信達岡中	27228	OK	34度	135度	02-1 200107	5	個人住宅
				20分	16分	02-2 200107	4	個人住宅
				51秒	38秒			
うじのまつ 氏の松遺跡	おおさかふせんなんしおかだ 大阪府泉南市岡田	27228	UJ	34度 22分 36秒	135度 16分 33秒	02-1 200207	4	個人住宅
おかだ 岡田遺跡	おおさかふせんなんしおかだ 大阪府泉南市岡田	27228	OKD	34度	135度	02-1 200204	4	個人住宅
				22分	16分	02-2 200205	3	個人住宅
				27秒	45秒	02-3 200208	10	宅地造成
						01-4 200202	2	個人住宅
なこうじきた 中小路北遺跡	おおさかふせんなんしなこうじ 大阪府泉南市中小路	27228	NKN	34度 22分 30秒	135度 16分 59秒	02-1 200204	3	個人住宅
なこうじにし 中小路西遺跡	おおさかふせんなんしなこうじ 大阪府泉南市中小路	27228	NKW	34度	135度	NKW・BZ02-1 200209	9	分譲住宅
				22分 15秒	17分 02秒	NKW01-1 200202	3	個人住宅
ぼうずいけ 坊主池遺跡	おおさかふせんなんしなこうじ 大阪府泉南市中小路	27228	BZ	34度 22分 10秒	135度 16分 48秒			
おのしろ 大苗代遺跡	おおさかふせんなんししんだちおのしろ 大阪府泉南市信達大苗代	27228	ONS	34度 22分 13秒	135度 17分 12秒	02-1 200211	2	個人住宅
しもむら 下村遺跡	おおさかふせんなんししんげ 大阪府泉南市新家	27228	SM	34度 22分 25秒	135度 16分 50秒	02-1 200209	2	個人住宅
うさいだ 兎田遺跡	おおさかふせんなんしうさいだ 大阪府泉南市兎田	27228	US	34度 22分 25秒	135度 18分 38秒	02-1 200207	3	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
男里遺跡・光平寺跡					
ON02-1			溝	土師器	90-7区と同一の遺構面を確認 南東方向にレベルを下げる自然地形を確認 流路を確認 最上層から瓦器出土 流路と考えられる層位を確認 遺構面を確認 7世紀後半代の遺構面のひろがりを確認
ON02-2					
ON02-3		7世紀後半		須恵器	
ON・KH02-4		12世紀後半		瓦器	
ON02-5		近現代	柱穴	弥生土器・土師器	
ON02-6				土師器	
ON02-7			溝(耕作痕)・ピット	土師質土器	
ON01-7		7世紀後半	不明土坑	土師器	
戎畑遺跡					
02-1		中世	不明土坑	土師器・土師質真蛸壺・瓦器	95-1区で確認した遺構面を確認
天神ノ森遺跡					
02-1					宅地造成に際し1.4m以上の攪乱を確認
幡代遺跡					
02-2					
岡中遺跡					
02-1					
02-2				土師器・陶磁器	
氏の松遺跡					
02-1					
岡田遺跡					
02-1					
02-2		中世		土師質土器	
02-3		中世		土師質土器	
01-4		中世	不明土坑	土師質真蛸壺	95-2区と同一の遺構面を確認
中小路北遺跡					
02-1				土師質土器	はじめての出土遺物
中小路西・坊主池遺跡					
NKW・BZ02-1					
NKW01-1					
大苗代遺跡					
02-1				瓦(近世)・須恵器	
下村遺跡					
02-1				弥生土器	
兔田遺跡					
02-1				土師質土器	

泉南市遺跡群発掘調査報告書 X X

泉南市文化財調査報告書 第39集

2003年3月31日

編集・発行 大阪府泉南市教育委員会
泉南市樽井1丁目1番1号
Tel.0724-83-0001

印刷 髯殺 **オオタ&たんぼほ**
泉南市信達大苗代1138-12
Tel.0724-82-1146

